

ミニディスクテッキ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



MDLP

MDS-LSA1

この取扱説明書の使いかた

- 操作を始める前に、「準備」(10ページ)をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
 - この取扱説明書では、主に本体のボタン類を使った操作を説明しています。
 - リモコンに本体と同じ表示のボタンがある場合は、そのボタンを使って本体のボタンと同じ操作ができます。
 - 本体とリモコンの表示が違うボタンで、同じ操作ができることもあります。この場合は本体のボタン類の後ろに、同じ操作をするリモコンのボタンを()に入れています。
- 例) ▶▷IIボタン (IIボタン) を押す。

- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号 意味



この操作はリモコンにあるボタンでのみ可能です。



知っていると便利な情報です。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
(チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

音量を調節するときは

MDはアナログカセットテープに比べ、非常に雑音が少なくなっています。アナログカセットテープのときのように音のない部分で雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大音量が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。

再生を始める前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

寒いときにお部屋の暖房を入れた直後など、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは、正常に動かないばかりでなく、MDや内部の部品もいためてしまいます。本機をご使用にならないときは、MDを取り出しておくことをお勧めします。

結露が生じたときは、電源を入れたまま、約1~数時間放置し、再度電源を入れ直してからご使用ください。もし何時間たっても正常に動作しない場合は、ソニーサービス窓口にご連絡ください。

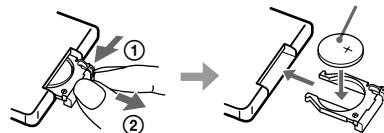
お手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面をいためますので使わないでください。

乾電池の交換のしかた

乾電池ケースをリモコンから引き出し、ボタン電池をはずします。次に、新しい電池の+の刻印のある面を上にしてケースに入れ、ケースをリモコンにはめ込みます。

リチウムボタン電池CR2025



① 押し続ける。

② 引く。

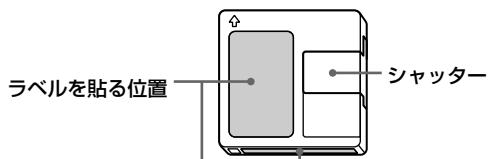
警告

乾電池を正しく交換しないと、液もれや破裂のおそれがあります。メーカー推奨の、同じまたは同等の型の電池を使用してください。また、捨てるときにはメーカーの指示に従ってください。

MDの取り扱いかた

MDはカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱えるようになっています。ただし、カートリッジの汚れやそりなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。

- シャッターを開けようすると、こわれることがあります。シャッターが開いてしまった場合は、内部のディスクに触れずに、すぐに閉めてください。
- ディスクに付属のラベルは、必ずラベル貼付用のくぼみに貼つてください。ラベルの形はディスクによって異なります。



置き場所について

直射日光が当たる所など温度の高い所や湿度の高い所には置かないでください。

定期的にお手入れを

カートリッジ表面についたホコリやゴミを乾いた布で拭いてください。

高速CDシンクロ録音について

CDの状態によっては音飛びや雑音、不要な曲がMDに録音されることがあります。このようなときはCDをきれいにしてノーマルスピード録音してください。

目次

各部の名称とはたらき 4

本体前面	4
リモコン	6
表示窓	8

準備 10

接続を始める前に	10
i.LINK対応機器に接続する	11

MDに録音する 12

録音する	12
録音する前のご注意	14
長時間録音する	15
録音レベルを調節する	16
録音するときに便利な機能	16
録音中に曲番を付ける（トラックマーキング）	17
6秒前の音から録音する（タイムマシン録音）	18
好きな音源とシンクロ録音する (ミュージックシンクロ録音)	19
ソニー製CDプレーヤーとシンクロ録音する (CDシンクロ録音)	19

MDを再生する 21

再生する	21
再生したい曲を選ぶ	22
再生したい部分を探す	22
繰り返し再生する（リピート再生）	23
ランダムに再生する（シャッフル再生）	24
聞きたい曲を好きな順番で再生する (プログラム再生)	24
テープに録音するときに便利な再生のしかた	25

MDを編集する 27

編集の前にお読みください	27
曲を消す（ERASE）	28
曲を分ける（DIVIDE）	30
曲をつなぐ（COMBINE）	31
曲を移動する（MOVE）	31
曲やディスクに名前を付ける（NAME）	32
最後の編集操作を取り消す（UNDO）	34
録音後に録音レベルを変更する（S.F EDIT）	35

その他の機能 36

フェードイン・フェードアウトを使う	36
表示の明るさを調節する	37
セットアップメニューを使ったその他の設定	37
i.LINKについて	38

その他 40

システム上の制約	40
ハイスピードコピーマネジメントシステム (HCMS)について	41
故障かな?と思ったら	42
保証書とアフターサービス	42
主な仕様	43
メッセージ表示一覧	43
エディットメニューの項目一覧	45
セットアップメニューの項目一覧	46
自己診断機能と表示一覧	47
索引	裏表紙

各部の名称と はたらき

この章では、本体前面と付属のリモコンの各部の名称とはたらきの簡単な説明をしています。

また、表示窓の見かたについての説明もしています。

各部のはたらきについて詳しくは、名称のあとの中の（ ）内のページをご覧ください。

本体前面

① (電源) スイッチ (12、21ページ)

押して電源を入れるとSTANDBYランプが消灯します。もう一度押して電源を切ると、ランプが点灯し、本機はスタンバイ状態になります。

② リモコン受光部

付属のリモコンを受光部  に向けて操作します。

③ LPインジケーター (15ページ)

録音モードをLP2、LP4ステレオに設定したときに点灯します。また、LP2、LP4ステレオ録音したMDの再生中にも点灯します。

④ H.A.T.S.ランプ

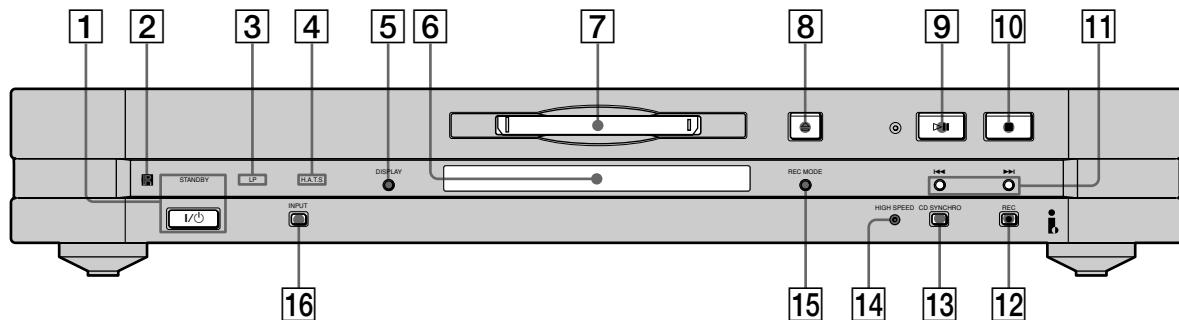
レシーバーでH.A.T.S.機能がオンのときに点灯します。

H.A.T.S.機能とは

レシーバーのH.A.T.S. (High quality digital Audio Transmission System) 機能が働いていると、入力されたデジタルオーディオ信号を一時的にバッファに蓄え、精度の高いタイミングでバッファから信号を読み出しアナログ信号に変換します。このため、デジタルオーディオ信号転送時に生じるジッター（信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ）の影響を受けず、音質がよくなります。

⑤ DISPLAYボタン (9、13、16、20、21ページ)

- 停止中に押すと、ディスクの情報を表示します。
- 録音中に押すと、録音中の曲の情報または残りの録音可能時間を表示します。
- 再生中に押すと、再生中の曲の情報を表示します。
- 録音中または録音待機中に押すと、録音レベルを調節できます。



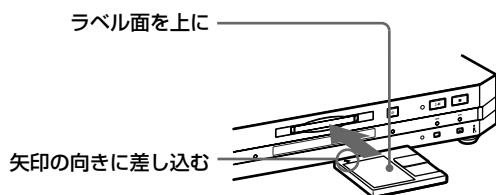
⑥ 表示窓 (8、16、32、35ページ)

さまざまな情報を表示します。

詳しくは「表示窓」(8ページ)をご覧ください。

⑦ MD挿入口 (12、21ページ)

下図のようにMDを差し込みます。



⑧ □ボタン (12、21ページ)

MDを取り出します。

⑨ ▶■ボタン (12、19、21、22ページ)

- 停止中に押すと再生を始めます。
- 再生中に押すと一時停止します。
- 録音中に押すと一時停止します。
- 再生や録音の一時停止中に押すと、再生や録音を再開します。

⑩ ■ボタン (12、20、21ページ)

再生、録音などを止めます。また、選んだ項目を取り消します。

⑪ ▲/▼ボタン (12、15、16、19、21、22ページ)

曲を頭出したり、メニュー項目や設定項目を変更したりするときに使います。

⑫ REC ●ボタン (12、17ページ)

録音します。また、曲番を自分で付けるときにも使います。

⑬ CD SYNCROボタン (19ページ)

CDシンクロ録音を始めます。

⑭ HIGH SPEEDインジケーター (20ページ)

高速CDシンクロ録音中に点灯します。

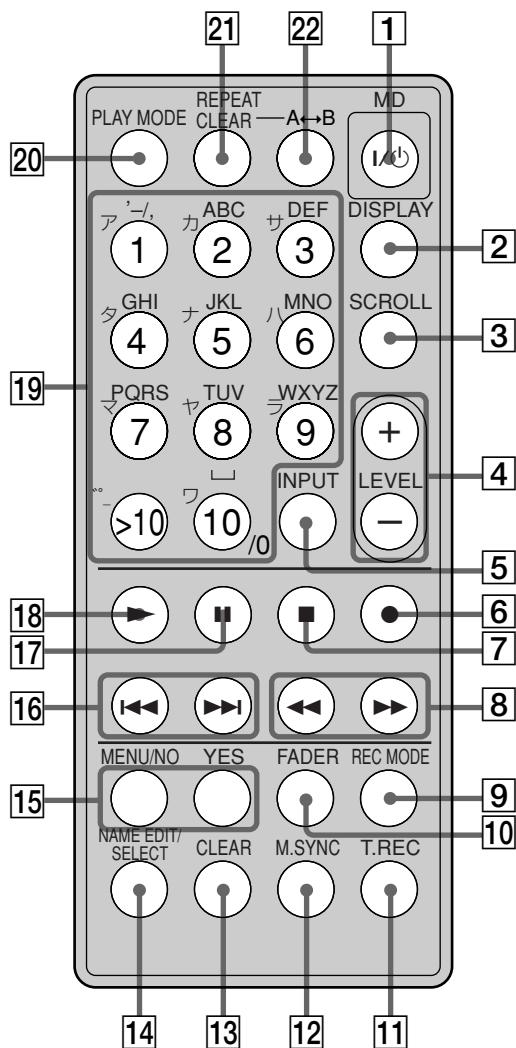
⑮ REC MODEボタン (15ページ)

モノラル録音、ステレオ録音、LP2ステレオ録音、LP4ステレオ録音を切り替えます。

⑯ INPUTボタン (12ページ)

MDに録音するとき、本機に入力する音源を選びます。音源がSTR-LSA1またはCDP-LSA1のときは、対応する機器の表示窓に一時的に「▶▶◀◀」と表示されます。他の音源に変更したいときはもう1度押してください。

リモコン



- 1 **STANDBY/ON (電源) スイッチ (12、21ページ)**
押して電源を入れると、本体前面のSTANDBYランプが消灯します。もう一度押して電源を切ると、ランプが点灯し、本機はスタンバイ状態になります。
- 2 **DISPLAYボタン (9、13、16、20、21、24ページ)**
表示窓の情報を切り替えます。
- 3 **SCROLLボタン (21ページ)**
長いディスク名や曲名をスクロールして表示します。
- 4 **LEVEL +/−ボタン (16ページ)**
録音レベルを調節します。
- 5 **INPUTボタン (12ページ)**
MDに録音するとき、本機に入力する音源を選びます。
- 6 **●ボタン (12、17、19ページ)**
録音します。また、曲番を自分で付けるときにも使います。
- 7 **■ボタン (12、20、21ページ)**
再生、録音などを止めます。また、選んだ項目を取り消します。
- 8 **◀/▶ボタン (22、23、29、30、32ページ)**
曲の中の聞きたい部分を探すときに使います。また、カーソルを移動します。
- 9 **REC MODEボタン (15ページ)**
モノラル録音、ステレオ録音、LP2ステレオ録音、LP4ステレオ録音を切り替えます。
- 10 **FADERボタン (36ページ)**
フェードイン・フェードアウト録音を行います。
- 11 **T.RECボタン (18ページ)**
タイムマシン録音を始めます。
- 12 **MUSIC SYNCボタン (19ページ)**
ミュージックシンク録音を始めます。
- 13 **CLEARボタン (24、33ページ)**
選んだ曲番や文字を取り消します。
- 14 **NAME EDIT/SELECTボタン (32、33ページ)**
ディスク名や曲名を付けたり、変更したりするときに使います。また、入力する文字の種類を選びます。

15 MENU/NOボタン (15~19、25、26、28~38ページ)

「Edit Menu」または「Setup Menu」を表示します。

YESボタン (15~17、19、24~26、28~38ページ)

選んだ項目を確定します。

16 ▲▼/◀▶ボタン (12、15~19、21、22、24~26、

28~38ページ)

曲の頭出し、項目や設定の選択を行います。また、入力する文字を選びます。

17 ▶ボタン (12、20、21ページ)

再生や録音を一時停止します。また、一時停止した再生や録音を再開します。

18 ▶ボタン (12、19、21、22、24ページ)

再生を始めます。

19 文字／数字入力ボタン (22、24、32ページ)

文字、数字を入力したり、曲番を選びます。

20 PLAY MODEボタン (24ページ)

シャッフル再生またはプログラム再生を選びます。

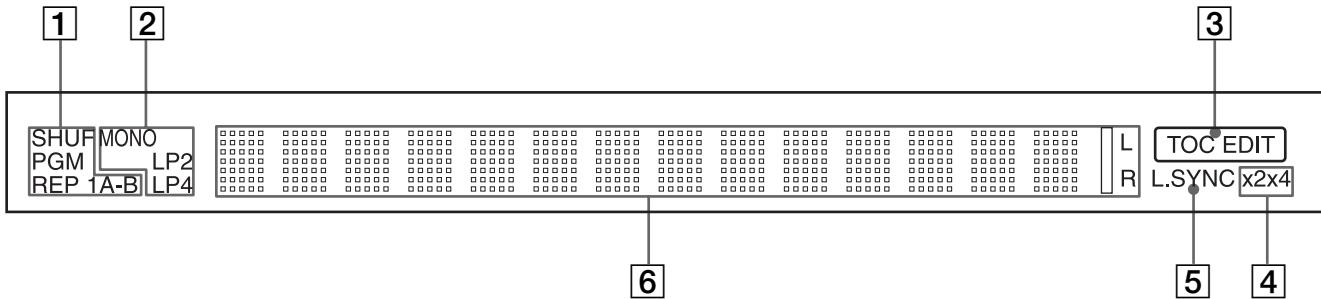
21 REPEAT CLEARボタン (23ページ)

- リピート再生を選びます。
- 全曲リピートまたは1曲リピート中に押すと、ふつうの再生に戻ります。

22 A↔Bボタン (23ページ)

A-Bリピート再生を選びます。

表示窓



① 再生モード表示

SHUF表示 (24ページ)

シャッフル再生を選ぶと表示されます。

PGM表示 (24ページ)

プログラム再生を選ぶと表示されます。

REP表示 (23ページ)

リピート再生を選ぶと表示されます。

- 全曲リピートを選ぶと「REP」が表示されます。
- 1曲リピートを選ぶと「REP 1」が表示されます。
- A-Bリピートを選ぶと「REP A-B」が表示されます。

② 録音モード表示 (15ページ)

- 録音モードをモノラルに設定したときやモノラル録音したMDの再生中は「MONO」が表示されます。
- 録音モードをLP2ステレオに設定したときやLP2ステレオ録音したMDの再生中は「LP2」が表示されます。
- 録音モードをLP4ステレオに設定したときやLP4ステレオ録音したMDの再生中は「LP4」が表示されます。
- 録音モードをステレオに設定したときやステレオ録音したMDの再生中は「MONO」、「LP2」、「LP4」が消灯します。

③ TOC EDIT表示 (14、28、38ページ)

- 録音内容がまだMDに記録されていないときは「TOC」が表示されます。録音した内容をMDに記録しているときは「TOC」が点滅します。
- 編集操作中は「TOC EDIT」が表示されます。

④ 高速CDシンクロ録音表示 (20ページ)

- 2倍速CDシンクロ録音 (LP2またはLP4ステレオ録音) 時は「×2」が表示されます。
- 4倍速CDシンクロ録音 (ステレオ録音またはモノラル録音) 時は「×4」が表示されます。

⑤ L SYNC表示 (18ページ)

録音中、自動的に曲番を付けるときに表示されます。

⑥ 情報、メニュー表示部 (8、9、16、32、35ページ)

- 編集中やメニュー操作中は、パラメーターを表示します。
- 録音中や録音待機中は、入力レベルを表示します。
- 本機の状態に応じて(再生、録音など)、ディスクや曲の情報(名前、再生時間など)を表示します。

ご注意

- DISPLAYボタンを押したときに表示される内容は、各状態ごとに内容が変更されるまで変わりません(詳しくは下記をご覧ください)。しかし、電源コンセントを抜くと、次に電源を入れたときに表示内容は初期値(工場設定値)に戻ります。
- 時間表示は録音モードによって異なることがあります。

MDを挿入したとき

次の情報が自動的に表示されます。

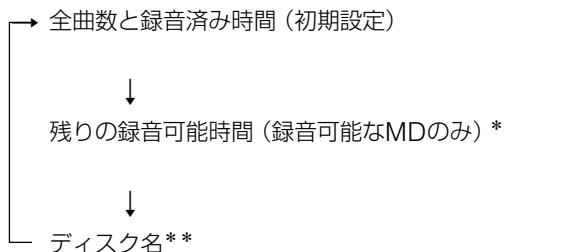
ディスク名

↓

全曲数と録音済み時間

停止中

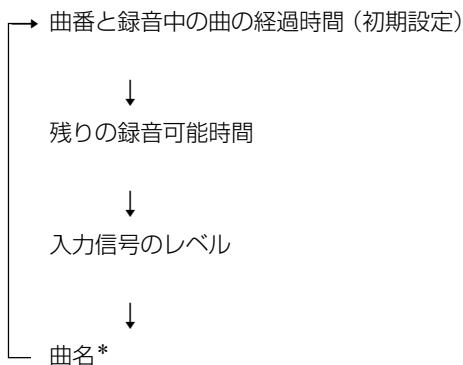
DISPLAYボタンを繰り返し押す。
押すたびに、表示は次のように変わります。



* 市販のMDソフトでは表示されません。
** ディスク名が付いていないときは「No Name」と表示されます。

録音中

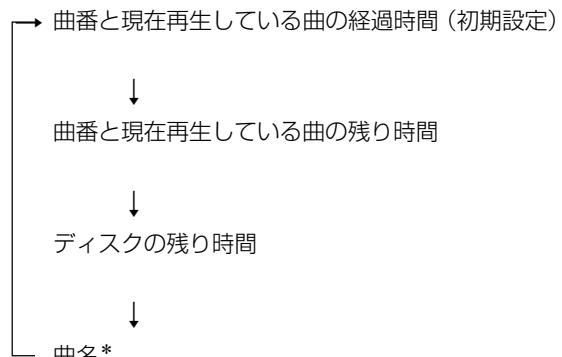
DISPLAYボタンを繰り返し押す。
押すたびに、表示は次のように変わります。



* 曲名が付いていないときは「No Name」と表示されます。

再生中

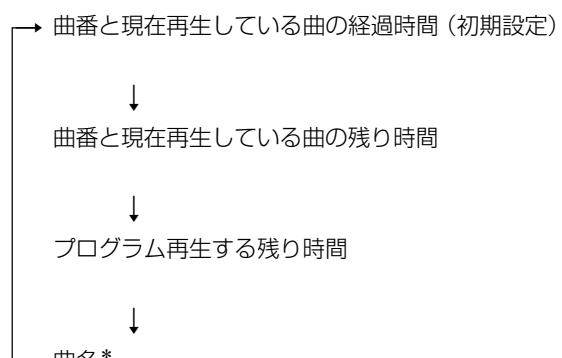
DISPLAYボタンを繰り返し押す。
押すたびに、表示は次のように変わります。



* 曲名が付いていないときは「No Name」と表示されます。

プログラム再生中

DISPLAYボタンを繰り返し押す。
押すたびに、表示は次のように変わります。



* 曲名が付いていないときは「No Name」と表示されます。

準備

この章では、お手持ちのオーディオ機器と本機のi.LINK接続のしかたを説明します。

接続する前に必ずお読みください。

接続を始める前に

付属品を確認する

本機とともに、次の付属品が同梱されています。

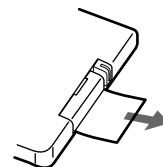
- i.LINKケーブル (4ピン↔4ピン) (1)
- リモコン (1)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)
- 保証書 (1)

以上の付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンを使う前に

カードリモコンには、出荷時にリチウムボタン乾電池 (CR2025) 1個が内蔵されています。

お使いになる前に、下図のようにして絶縁シートをリモコンから引き抜いてください。



リモコンで操作するときは

リモコンを本体のリモコン受光部Rに向けて操作する。

液もれを防ぐために

長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出してください。

⌚ 乾電池の寿命は約6か月です。

残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。

ご注意

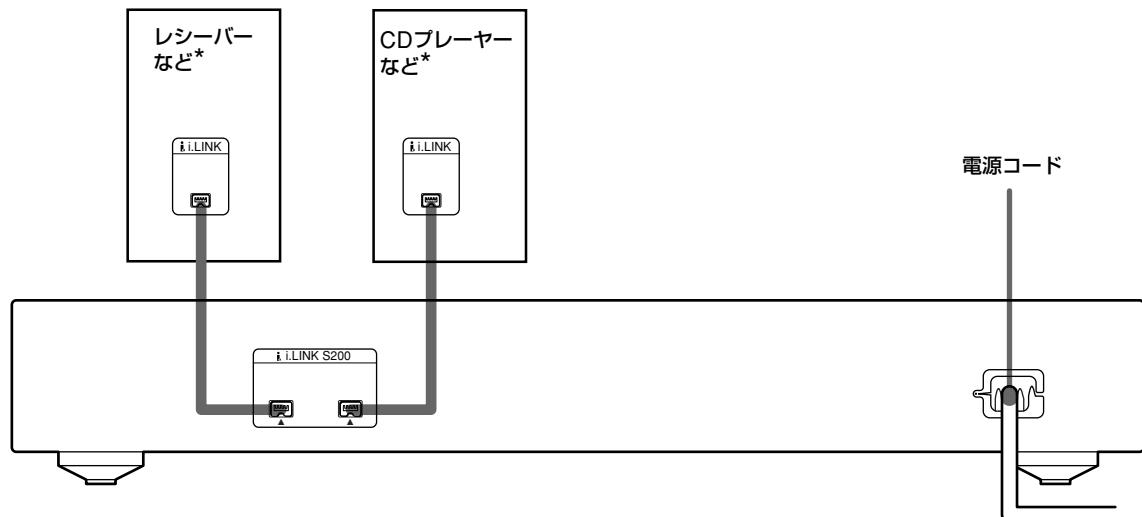
- 子供の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合には、直ちに医師と相談してください。
- 接触不良を防ぐため、使用する前に電池ケースの中と電池を乾いた布でよく拭いてください。
- +と-の向きを正しく入れてください。
- 金属製のピンセットなどで電池をつかまないでください。ショートするおそれがあります。
- 充電しないでください。
- 液漏れしたときは、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 電池を長い間入れたままにしておくと、電池の一部に白い粉がつることがあります。乾いた布などで拭き取ってからお使いください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部Rに直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコン操作ができない場合があります。

警告

乾電池の使い方を誤ると、破裂のおそれがあります。

分解や加熱をしないでください。また、捨てるときは燃えないゴミとして処理してください。

i.LINK対応機器に接続する



* i.LINK対応機器はどちらのi.LINK S200端子につないでもかまいません。

必要なコード類

i.LINKケーブル (2) (1本のみ付属)



接続に関するご注意

- 本機と、本機に接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。

i.LINKを使って接続する

つなぐもの	つなぐ端子
レシーバー、CDプレーヤーなど	i.LINK S200端子

i.LINKを使ってつなぐときのご注意

i.LINK端子に金属が触れるショートし、接続した機器にトラブルが生じる場合があります。

別売りのi.LINKケーブルについて

下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

- VMC-IL4415 (1.5 m)
- VMC-IL4435 (3.5 m)

本機とi.LINK接続できる機器

本機と以下の機器をi.LINKケーブルでつなぐことができます。

- レシーバー STR-LSA1
- CDプレーヤー CDP-LSA1

● i.LINK接続について

38ページの「i.LINKについて」をご覧ください。

ご注意

- 本機が対応している信号は、以下のとおりです。
伝送プロトコル A&Mトランスマッショントコロ
(IEC61883-6)
信号フォーマット 2チャンネルリニアPCM (IEC60958)
サンプリング周波数 (入力) 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
(出力) 44.1 kHz
- i.LINK機器の中には、暗号化したオーディオ信号を扱う機器があります。それらの機器が出す暗号化された信号や、本機が対応していない信号 (DVやMPEGなど) に関しては、本機は扱うことはできません。各機器が対応している信号の種類、暗号化について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の動作中 (録音中など) に、本機や本機に接続しているi.LINK対応機器のi.LINKケーブルを抜き差ししないでください。誤動作するおそれがあります。
- 本機のi.LINK S200端子と他の機器のi.LINK S200またはS400端子を、i.LINK S100端子を備える機器をはさんで接続しないでください。
- 本機が、i.LINK S200またはS400端子を備える機器とLINCしているとき、他のi.LINK S100端子を備える機器からはこれらの機器に正しくLINCできません。このときは、i.LINK S200またはS400端子を備える機器に対して、まずi.LINK S100端子を備える機器からLINCした後で、本機からLINCしてください。LINC (Logical Interface Connection) について詳しくは、39ページをご覧ください。

電源コードを接続する

プラグを壁のコンセントに差し込みます。

ご注意

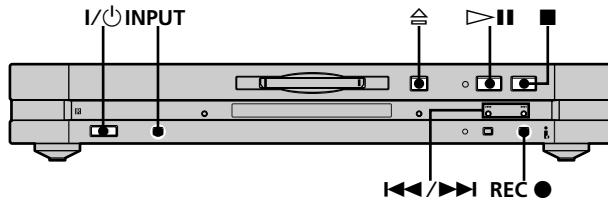
タイマーをお使いになるときは、電源コードをタイマーのコンセントに差し込んでください。

MDに録音する

この章では、さまざまな録音のしかたや曲番の付けかた、他の機器とのシンクロ録音のしかたを説明しています。録音を始める前に「システム上の制約」(41ページ) もお読みください。

録音する

すでに録音済みのMDに録音するときは、自動的に録音済みの部分の続きに録音します。



- 1 本機のI/□(電源)スイッチを押して電源を入れる。
STANDBYランプが消灯します。
- 2 録音したい音源とレシーバーの電源を入れ、レシーバーで音源を選びます。
- 3 録音用のMDを入れる。
- 4 INPUTボタンを繰り返し押して、録音したい音源を選びます。
録音したい音源が表示されないときは13ページをご覧ください。
- 5 必要に応じて録音モードを選ぶ。
詳しくは、「長時間録音する」(15ページ)をご覧ください。
- 6 必要に応じて録音を始める位置を決める。
新しいMDに録音するとき、または録音済み部分の続きに録音するときには、この手順は不要です。手順7に進んでください。
 - ・録音済みの曲の頭から消しながら録音したいとき
◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して消したい曲の曲番を表示させる。
 - ・録音済みの曲の途中以降から消しながら録音したいとき
◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して消したい曲の曲番を表示させ、▷IIボタン(または▶ボタン)を押して再生を始め、録音を始めたいところで▷IIボタンをもう1度押す(またはIIボタンを押す)。
- 7 録音したい音源の再生を始める。
- 8 REC ●ボタンを押す。
録音待機状態になります。
- 9 必要に応じて録音レベルを調節する。
詳しくは、「録音レベルを調節する」(16ページ)をご覧ください。
- 10 ▷IIボタン(または▶ボタン、IIボタン)を押す。
録音が始まります。

録音中の基本操作

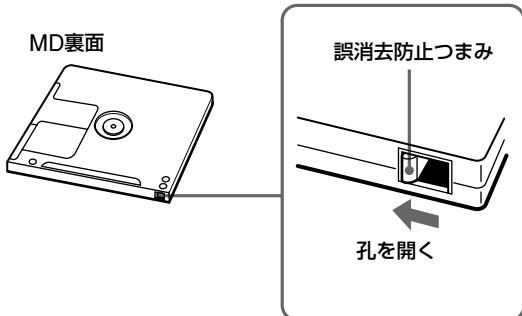
操作	使うボタン
録音を止める	■ボタン
録音を一時停止する	▷■ボタン (または■ボタン)
一時停止した録音を再開する	▷■ボタン (または▶ボタン、■ボタン)
表示窓の表示を切り換える	DISPLAYボタン (9ページ)
MDを取り出す	録音を止めたあと、合ボタン

録音を一時停止したあとで再開すると

曲番が変わります。例えば、4曲目を録音中に録音を一時停止すると、録音を再開したところから5曲目になります。

録音の誤消去を防ぐには

MDの誤消去防止つまみをずらして、孔が開いた状態にすると、録音できなくなります。孔を閉じると、再び録音できるようになります。



手順4で音源が表示されないときは

本機が音源の情報を読み込むときにエラーが起きたか、本機が機器からの情報を読み込めなかった可能性があります。次のようなメッセージが表示されます。

メッセージ	意味
Disc, Tunerなど	機器の一般的な情報だけ読み込んだ。
Unknown	機器の情報を読み込むことができなかった。ただし、接続した機器を操作することはできます。
No Device	本機に機器が接続されていない。
CANNOT LINC	選んだ機器を録音できない。

手順8で「Overwrite」が点滅しているときは、録音済みの部分を消しながら録音します。

録音した曲をすぐに再生して確認できます。
録音を止めた直後に、▷■ボタン (または▶ボタン) を押す。
今回録音した最初の曲から再生が始まります。

録音したあと、すぐに1曲目から再生できます。
1 録音を止めた直後に、もう一度■ボタンを押す。
2 ▷■ボタン (または▶ボタン) ボタンを押す。
MDの最初の曲から再生が始まります。

ご注意

録音中は、電源コードやi.LINKケーブルを抜き差ししないでください。正しく録音できないことがあります。

録音する前のご注意

録音中の表示について

「Protected」と「C11」が交互に表示されるとき

ディスクが誤消去防止状態になっています。ディスクを取り出し、録音可能状態にしてください。詳しくは「録音の誤消去を防ぐには」(13ページ)をご覧ください。

「Cannot Copy」と「C12」が交互に表示されるとき

本機にはシリアルコピーマネージメントシステムが搭載されています。デジタル入力端子を通して録音されたMDはデジタル出力端子を使って他のMDやDATに録音することはできません。詳しくは本ページの「デジタルオーディオをコピーするときのルール—シリアルコピーマネージメントシステム」をご覧ください。

「Impossible」が表示されるとき

シャッフル再生またはプログラム再生(24ページ)を選んだ状態で、録音済みの部分に録音しようとしています(「録音する」12ページをご覧ください)。ふつうの再生(21ページ)またはリピート再生(23ページ)を選んだときのみ、録音済みの部分に録音できます。

「NO SIGNAL」が表示されるとき

本機への入力がないので録音できません。

「Tr」が点滅するとき

録音済みの部分を消しながら録音しています。録音されていない部分に初めて録音しているときには、「Tr」は点灯します。

録音後の表示について

「TOC」が点灯しているとき

録音内容はまだMDに記録されていません。「TOC」が点灯しているときに電源プラグをコンセントから抜かないでください。録音した内容をMDに記録できなくなります。MDを取り出そうとしたとき、または本機の電源を切ろうとしたときに録音内容はMDに記録されます。

「TOC Writing」が点滅しているとき

録音した内容をMDに記録しています。このとき、電源プラグをコンセントから抜いたり、本体をゆらしたりしないでください。録音した内容が正しく記録されない場合があります。

デジタルオーディオをコピーするときのルール —シリアルコピーマネージメントシステム

デジタルオーディオでは、音声をデジタル信号でやりとりします。コンパクトディスク(CD)、ミニディスク(MD)、デジタルオーディオテープ(DAT)、衛星デジタル音楽放送などがこれに相当します。これらは音楽を手軽に、劣化の少ない状態でコピーできます。このため、音楽ソフトの著作権を保護するコピー規制が必要になりました。それが「シリアルコピーマネージメントシステム」です。本機の設計はこのシステムに準拠しています。概要は以下の通りです。

原則1

デジタル録音したものから、さらに他のデジタル録音機器(MDやDATデッキなど)へのデジタル録音はできない。

原則2

アナログ録音したものは、他のデジタル録音機器へ1度だけデジタル録音できる。

ご注意

- CS/BSチューナーからはデジタル録音できないことがあります。これは、放送局側で放送チャンネルや番組のデジタル録音を、禁止または制約する場合があるためです。
- 機器のアナログ入出力端子同士を接続してアナログ録音するときは、上記の原則にあたりません。
- 著作権を保護するためのコピーコントロール信号を除去、改変してコピーを作成することは、個人として楽しむ目的であっても法律で禁止されています。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

(お問い合わせ先 (社) 私的録音補償金管理協会
Tel. 03-5353-0336)

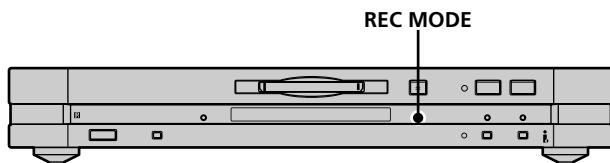
長時間録音する

録音時間を2倍長または4倍長(60分のMDなら120分または240分)にしてステレオ録音することができます(MD LP録音)。また、モノラル録音では、ステレオ信号をモノラルに変換して録音します。録音時間は、通常のステレオ録音の約2倍になります。

LP4ステレオ録音モード(4倍長時間録音モード)は、特殊な圧縮方式によって長時間ステレオ録音を実現しています。音質を重視するときは、ステレオ録音モードまたはLP2ステレオ録音モード(2倍長時間録音モード)をおすすめします。

ご注意

MD LP録音したMDを再生するときは、MD LP対応機器を使ってください。MDLP未対応機器では再生できません。



- 1 「録音する」の手順1~4(12ページ)を行う。
- 2 REC MODEボタンを繰り返し押して、録音モードを選ぶ。

録音モード	選ぶ表示
モノラル録音	MONO
ステレオ録音(初期設定)	表示なし
LP2ステレオ録音	LP2
LP4ステレオ録音	LP4

- 3 「録音する」の手順6~10(12ページ)を行う。

MD LP録音時に、曲名の最初に「LP:」を付けるには

MD LP録音時に、曲名の最初に「LP:」を付けるには
MD LP未対応機器で再生しようとすると表示されます。再生できないことが一目で分かるため便利です。この機能をやめるときは下記の手順を行ってください。

- 1 停止中または再生中にMENU/NOボタンを繰り返し2回押す。
「Setup Menu」が表示されます。
- 2 ▲▼/◀▶ボタンを繰り返し押して「LP Stamp On」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 ▲▼/◀▶ボタンを繰り返し押して「LP Stamp Off」を表示させ、YESボタンを押す。
- 4 MENU/NOボタンを押す。

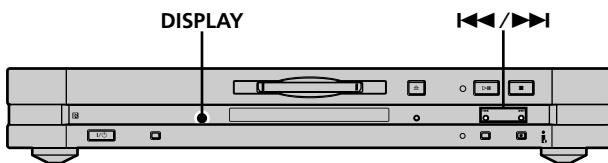
曲名の最初に再び「LP:」を付けるようにするには、手順3で「LP Stamp On」を表示させます。

ご注意

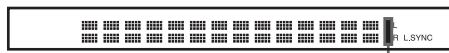
- 記録された「LP:」は、MD LP未対応機器で再生しようとしたときに、再生ができないことを表示する確認用のスタンプです。再生可能なMD LP対応機器では表示されません。
- Onに設定すると曲名として記録されるため、1枚のMDに入力できる文字数が少くなります。
- 「LP:」付きの曲名をコピーするとコピー先にも「LP:」が自動的に付きます。DIVIDE機能を使って曲を分けると、後の方の曲にも「LP:」が付きます。

録音レベルを調節する

必要に応じて、録音レベルを調節できます。



- 「録音する」の手順1~7(12ページ)を行う。
- 音源の再生レベルが一番高い部分(音が一番大きい部分)を再生する。
- DISPLAYボタンを繰り返し押して、入力レベルを表示させる。
- 音を聞きながら< / >ボタン(またはLEVEL + / -ボタン)を繰り返し押して、録音レベルを調節する。再生レベルが一番高いときに、ピークレベルメーターの右端のインジケーターが常に点灯した状態にならないように調節します。



ここが常に点灯しないように調節

- 録音する音源の再生を止める。
- このまま録音を始めるときは、「録音する」の手順7(12ページ)以降を行う。

ピークホールド機能を使うことができます。[]

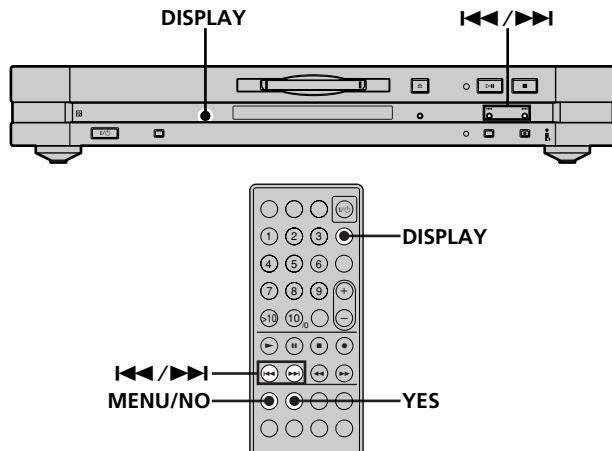
入力信号のレベルが一番高くなったときのピークレベルメーターの状態を、そのレベルを超える信号が入力されるまで止めて表示させることができます。

- MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。
「Setup Menu」が表示されます。
 - < / >ボタンを繰り返し押して「P.Hold Off」(初期設定)を表示させ、YESボタンを押す。
 - < / >ボタンを繰り返し押して「P.Hold On」を表示させ、YESボタンを押す。
 - MENU/NOボタンを押す。
- ピークホールド機能をやめるときは、手順3で「P.Hold Off」を表示させます。

ご注意

+18.0 dBまでしか音量を上げることはできません。接続している機器の出力レベルが低い場合、録音レベルを最大にすることができないことがあります。

録音するときに便利な機能



MDの残り時間を調べる

DISPLAYボタンを繰り返し押す。

本機の状態 表示される情報

停止中	録音済みの時間 ↔ 録音可能な時間
録音中	録音中の曲の経過時間 ↔ 録音可能な時間

詳しくは9ページをご覧ください。

ご注意

録音モードによって表示される時間は異なります。

録音中の無音部分を自動的に消す(スマートスペース/オートカット) []

録音中に入力信号が途切れたときに、録音されてしまった無音部分を自動的に消すことができます。入力信号が途切れた長さによって、本機の動作は変わります。

スマートスペース

信号が途切れてから30秒以内に再び入力されると、録音された無音部分は曲間の約3秒を残して自動的に消され、そのまま録音が続けます。この機能が働いているとき、「Smart Space」と表示されます。

録音中に曲番を付ける (トラックマーキング)

自分で付ける方法と、自動的に付ける方法の2通りがあります。曲番を付けると、曲の頭出しや編集操作をするときに便利です。

オートカット

信号が途切れから30秒以上経つと、録音された無音部分は曲間の約3秒を残して自動的に消され、録音一時停止状態になります。この機能が働いているとき、「Auto Cut」と表示されます。

スマートスペースとオートカットを設定するためには、以下の手順を行います。

- 1 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。
「Setup Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「S.Space On」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

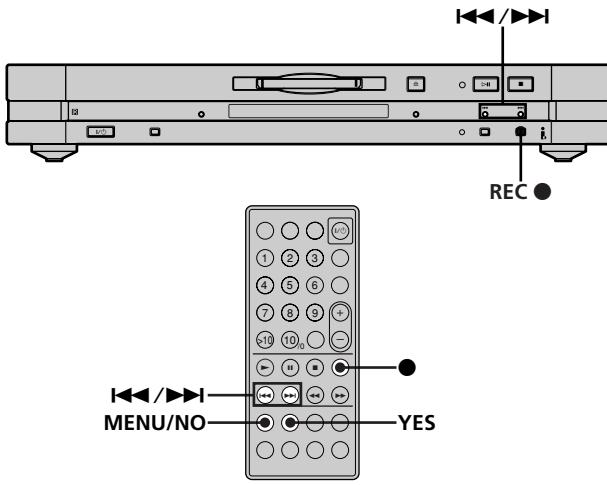
スマートスペースとオートカットを 選ぶ設定

自動的に働かせる	S.Space On (初期設定)
働かせない	S.Space Off

- 4 MENU/NOボタンを押す。

ご注意

- 信号が入力されていない状態で録音を始めると、設定にかかわらずスマートスペースとオートカットは働きません。
- スマートスペースが働いた前後で曲番が変わらないことがあります。
- スマートスペースとオートカットの設定は共通です。どちらか一方だけを働かせることはできません。
- 本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしても設定は記憶されています。
- オートカットによる録音一時停止状態が約10分間続くと、録音は自動的に停止します。



自分で付ける (マニュアルトラックマーキング)

録音中に、曲番を付けたいところでREC ●ボタンを押す。

自動で付ける (オートトラックマーキング)

i.LINK S200端子に接続したCDプレーヤーやMDデッキから録音するときは、音源のCDまたはMDと同じ曲番が自動的に付きます。i.LINK接続した他の音源から録音するときに自動で曲番を付けるためには、以下の設定を行います。ただし、テープやラジオなどの音源で雑音が多い場合、自動で曲番を付けることはできません。

- 1 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。
「Setup Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「T.Mark Lsync」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

オートトラックマーキングを 選ぶ設定

働かせる	T.Mark Lsync (初期設定)
働かせない	T.Mark Off

録音中に曲番を付ける（トラックマーキング）

4 MENU/NOボタンを押す。

手順3で「T.Mark Lsync」を選んだときは「L.SYNC」が点灯します。

入力される信号のレベルが1.5秒以上続けて-50 dB以下になったあとで、再び-50 dB以上のレベルの信号が入力されたときに新しい曲番が付きます。

オートトラックマーキングの基準になる入力信号のレベルを設定するには

ここで設定したレベル以下の信号入力が1.5秒以上続いたあとで、再び設定レベル以上の信号が入力されたときに新しい曲番が付きます。

1 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。

「Setup Menu」が表示されます。

2 $\blacktriangleleft/\triangleright$ ボタンを繰り返し押して「LS (T)」を表示させ、YESボタンを押す。

3 $\blacktriangleleft/\triangleright$ ボタンを繰り返し押して入力信号のレベルを選び、YESボタンを押す。

入力信号のレベルは-72 dB～0 dB (2 dB単位) の範囲で選べます。

4 MENU/NOボタンを押す。

💡 曲番の付きかたの補足情報

- i.LINK接続したCDプレーヤーやMDデッキから録音するときは、以下の場合は録音した部分全体に対して1つしか曲番が付かないことがあります。
 - 1曲リピートなどで同じディスクのある1曲を繰り返し録音したとき
 - 違うディスクの同じ曲番を続けて録音したとき
 - 一部のCDプレーヤーまたはマルチディスクプレーヤーから録音したとき
- いずれの場合も、録音後に曲を分けてください。また、MDから録音した曲が4秒以下(ステレオ、LP2ステレオ、モノラル録音時)または、8秒以下(LP4ステレオ録音時)のときは曲番が付かないことがあります。
- i.LINK接続したDATや衛星放送を録音するときは、録音した部分全体が1曲として扱われ、1つしか曲番が付きません。
- i.LINK接続したDATや衛星放送を録音しているときに入力信号のサンプリング周波数が変わると、オートトラックマーキングの設定にかかわらず新しい曲番が自動的に付きます。

💡 録音後に曲番を付けることもできます。

詳しくは、「曲を分ける」(30ページ)をご覧ください。

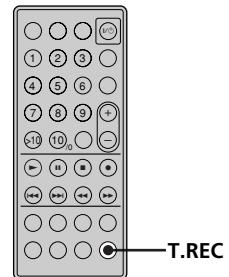
ご注意

本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしても、オートトラックマーキングの設定は記憶されています。

6秒前の音から録音する (タイムマシン録音)



録音待機状態になると、本機は音源からの音をメモリーに蓄え始め、その時点から最高約6秒前までの音を常に蓄えています。タイムマシン録音のとき、本機は音源からの音ではなく、音源からメモリーに蓄えられた音を録音していきます。衛星放送やFMから録音するときに、タイミングを逃して録音の最初が欠けるのを防ぐことができます。



1 「録音する」の手順1～8 (12ページ) を行う。

録音待機状態になります。

2 録音を始めたいところで、T.RECボタンを押す。

押した時点でメモリーに蓄えられている音を録音し始め、その後もメモリーの音を使って録音を続けます。

タイムマシン録音を止めるには

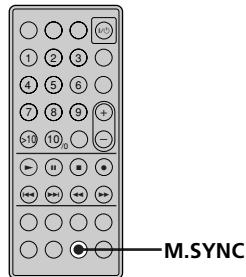
■ボタンを押す。

ご注意

音がメモリーに蓄えられるのは、本機が録音待機状態になってからです。録音待機状態が6秒以下だったときは、メモリーに6秒間分の音は蓄えられていませんので、6秒前の音を録音できません。

好きな音源とシンクロ録音する (ミュージックシンクロ録音)

入力端子に接続された音源の再生と同時に録音を始めることができます。曲番の付きかたは、録音する音源によって異なります。詳しくは、「録音中に曲番を付ける」(17ページ)をご覧ください。



1 「録音する」の手順1~6 (12ページ) を行う。

2 M.SYNCボタンを押す。

録音待機状態になります。

3 録音したい音源の再生を始める。

自動的に録音が始まります。

ミュージックシンクロ録音を止めるには

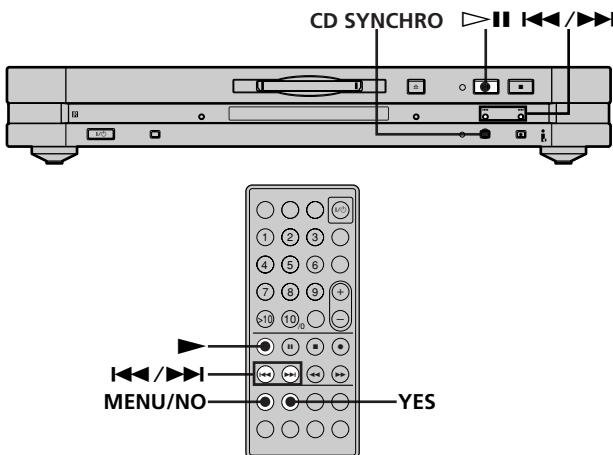
■ボタンを押す。

ご注意

ミュージックシンクロ録音中は、スマートスペースとオートカット (17ページ) が自動的に働きます。

ソニー製CDプレーヤーとシンクロ録音する (CDシンクロ録音)

ソニー製のCDプレーヤーから録音するときに、簡単にシンクロ録音できます。通常速度での録音と高速録音が選べます。高速録音を選んだときは、現在の録音モードによって自動的に2倍速録音または4倍速録音が選ばれます。



1 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。

「Setup Menu」が表示されます。

2 ▶◀/▶▶ボタンを繰り返し押して「Synchro High」を表示させ、YESボタンを押す。

3 ▶◀/▶▶ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

録音スピード	選ぶ設定
通常速度	Synchro Normal
高速	Synchro High* (初期設定)

* モノラルまたはステレオ録音が選ばれているときは、CDシンクロ録音は4倍速で行われます。LP2またはLP4ステレオ録音が選ばれているときは2倍速で行われます。

4 MENU/NOボタンを押す。

5 CDプレーヤーとレシーバーの電源を入れ、レシーバーでCDを音源に選ぶ。

6 「録音する」の手順3~6 (12ページ) を行う。

7 CDプレーヤーにCDを入れ、再生方法 (ふつうの再生またはプログラム再生) を選ぶ。

ソニー製CDプレーヤーとシンクロ録音する(CDシンクロ録音)

8 CD SYNCHROボタンを押す。

CDプレーヤーは再生一時停止、本機は録音待機状態になります。MDデッキのHIGH SPEEDインジケーターが点灯し、録音スピードに対応して表示窓に「×2」または「×4」が表示されます。

「Select CD」が表示されるときは

CDプレーヤーが音源として選ばれていません。本機のINPUTボタンを押してCDプレーヤーを選んでください。

「Connect CD」が表示されるときは

CDプレーヤーがiLINK接続されていません。CDプレーヤーを接続してください。

9 「New Track」が点滅し始めたら、▷IIボタンを押す。

本機は録音を始め、CDプレーヤーは再生を始めます。表示窓に曲番とその曲の経過時間が表示されます。CDプレーヤーの再生が終わると録音は自動的に止まります。

CDシンクロ録音中の操作

操作	使うボタン
録音を止める	■ボタン
MDの残り時間を確認する	DISPLAYボタン (16ページ)

表示窓に「Cannot Synchro」が表示されたら

読み取り時にエラーが起きています。もう1度録音し直してください。次のようなときにエラーが起きる可能性があります。

- CDプレーヤーの再生中にシンクロ録音を開始しようとすると表示されます。
- 次のようなCDを使用すると、読み取りエラーが起こり、ノイズなどが混入して正しく録音されない場合があります。
 - シールなどが貼られている
 - 円形以外の形をしている(ハート形など)
 - レーベルの印刷が一方向にかたよっている
 - 傷がついている
 - 汚れている
 - 反っている
- 本機の状態が次のようなときも、読み取りエラーが起こって正しく録音されない場合があります。
 - CDトレイや本体を叩いた
 - 水平でないところや、柔らかいものの上に設置されている
 - スピーカーやドアなど、震動源の近くに設置されている

▷IIボタン(または▶ボタン、IIボタン)を押したあとで「-Retry-」と表示されたときは

CDからの読み取りエラーが起り、本機はCDのデータを再度読み取っています。

- 読み取りに成功すると、高速シンクロ録音のままで録音を続けます。
- CDや本機の状態が悪く、再読み込みができないときは、高速シンクロ録音ができなくなります。この場合は、CD SYNCHROボタンのランプが点滅し*、自動的に通常速度のシンクロ録音に切り換わります。

* 以下のように点滅します。(■:点灯、-:消灯)

■ - ■ - ■ -

高速シンクロ録音の制限事項について

同じ曲を、続けて高速シンクロ録音することはできません(HCMS: ハイスピードコピーマネージメントシステム、41ページ)。高速シンクロ録音したCDの曲が直前の74分間の録音時間内に録音されたものだった場合は、その曲の高速シンクロ録音はできません。このとき、CD SYNCHROボタンのランプが点滅し*、自動的に通常速度のシンクロ録音に切り換わります。

* 以下のように点滅します。(■:点灯、-:消灯)

■ ■ - - ■ ■ - - -

CDプレーヤーに付属のリモコンでも録音を止めることができます。

■ボタンを押す。本機の録音とCDプレーヤーの再生が止まります。

CDシンクロ録音中の曲番の付きかた

CDプレーヤーをiLINK接続しているときは、CDと同じ曲番が自動的に付きます。

CDの曲名をMDに自動的にコピーできます(CDテキスト対応のCDのみ)(ディスクメモコピー機能)

CDテキスト対応のCDをシンクロ録音し、NAME EDIT/SELECTボタンを押すとMDデッキの表示窓に曲名が表示されます。MDに曲名として記録するときはYESボタンを押します。

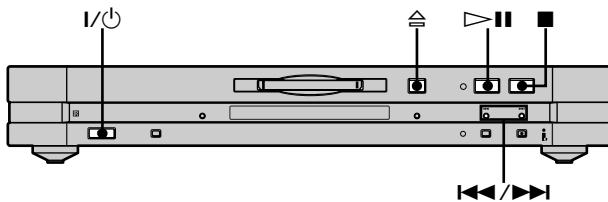
ご注意

- CDシンクロ録音中は録音済み部分を消しながら録音することはできません。自動的に録音済みの部分の続きを録音します。
- CDプレーヤーがシャッフル再生やリピート再生になっているときは、手順8でCD SYNCHROボタンを押したときに自動的にふつうの再生に切り換わります。
- 高速CDシンクロ録音中は以下の機能は使えません。
 - オートカット機能
 - セットアップメニューで調節した録音レベル(0.0 dBで録音されます)。
- CDによっては、文字情報がコピーされないものがあります。
- 手順8でCD SYNCHROボタンを押したあと1分以上操作しなかった場合は、自動的にCDシンクロ録音は解除されます。
- 録音中は電源コードやiLINKケーブルを抜き差ししないでください。正しく録音できないことがあります。
- CDの曲をすべて録音したいときは、CDよりも残りの録音可能な時間の長いMDをご使用ください。
- 録音の途中でMDがいっぱいになったときは、その曲はMDに録音されません。

MDを再生する

この章では、さまざまな再生のしかたを説明しています。

再生する



- 1 本機のI/□(電源)スイッチを押して電源を入れる。STANDBYランプが消灯します。
- 2 レシーバーの電源を入れ、レシーバーで本機を音源に選ぶ。
- 3 MDを入れる。
- 4 途中の曲から再生を始めたいときは、▶▶ボタンを繰り返し押して曲番を選ぶ。
1曲目から再生を始めるときは、この手順は不要です。手順5に進んでください。
- 5 ▷□ボタン(または▶ボタン)を押す。
再生が始まります。
- 6 レシーバーで音量を調節する。

MDを再生する

再生中の基本操作

操作	使うボタン
再生を止める	■ボタン
再生を一時停止する	▷□ボタン(または□ボタン)
一時停止した再生を再開する	▷□ボタン(または▶ボタン、□ボタン)
1曲先へ進む	▶▶ボタン
再生中の曲の頭または1曲前に戻る	◀◀ボタン
表示窓に表示される情報を見る	DISPLAYボタン(9ページ)
MDを取り出す	再生を止めた後、合ボタン

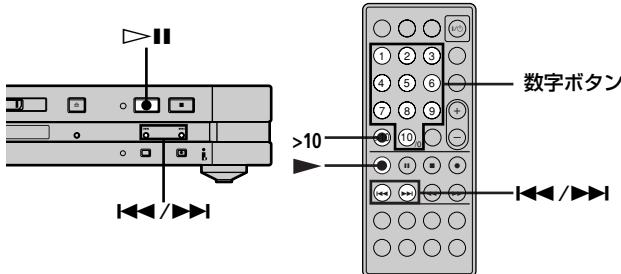
💡 レシーバーとLINCしているときは
本機の▷□ボタン(または▶ボタン)を押すと、レシーバーの電源が入り自動的に再生が始まります。

💡 LP2またはLP4ステレオ録音したMDを再生すると
LPインジケーターが点灯します。

💡 再生中に曲名を確認できます(曲名が付いているときのみ)。
SCROLLボタンを押すと曲名が表示され、スクロールします。
スクロール中にもう1度押すとスクロールは止まり、さらにもう1度押すと再びスクロールします。

再生したい曲を選ぶ

再生中または停止中に、次に再生したい曲を選んで頭出しうることができます。



AMS*を使って探す

MDを再生する

探しかた 操作

再生中に次の曲を頭出しうる ▶▶Iボタンを繰り返し押す。
(AMS)

再生中に前の曲を頭出しうる ▶◀ボタンを繰り返し押す。
(AMS)

再生中の曲の頭に戻る ▶◀ボタンを1度押す。
(AMS)

停止中に曲番表示を見ながら 聞きたい曲番が表示されるまで
選ぶ ▶◀/▶▶ボタンを押し、▷ IIボタン (または▶ボタン) を押す。

* オートマチック ミュージック センサー
* Automatic Music Sensor

💡 最後の曲をすばやく選ぶことができます。

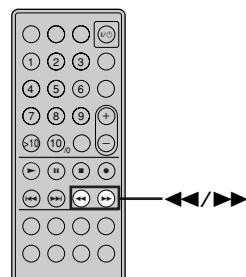
停止中に、▶◀ボタンを1回押す。

💡 停止中または一時停止中に曲を選ぶと

頭出しうる停止または一時停止状態のままでです。

再生したい部分を探す

再生中または一時停止中に、曲の中の聞きたい部分を選ぶことができます。



聞きながら探す (サーチ)

再生中、◀◀/▶▶ボタンを押したままにする。

再生音が断続的に聞こえます。聞きたい部分に近づいたら、ボタンをはなします。

ご注意

- 聞きながら探しているときに最後の曲の終わりまで進むと、再生は止まります。
- 極端に短い曲が連続している部分は、正常にサーチできない場合があります。

時間表示を見ながら探す (高速サーチ)

一時停止中、◀◀/▶▶ボタンを押したままにする。

曲の経過時間が表示されます。聞きたい部分に近づいたらボタンをはなします。再生音は聞こえません。

💡 高速サーチ中に「- Over -」と表示されたときは

最後の曲の終わりまで進んでいます。◀◀ボタンを押して曲中に戻します。

ダイレクト選曲で選ぶ

曲番を数字ボタンで入力する。

10曲目以降を入力するには

1 >10ボタンを押す。

押す回数については下の例を参照してください。

2 数字ボタンを使って曲番を入力する。

0を入力するときは10ボタンを押します。

例：30曲目を選ぶとき >10 (1回) → 3 → 10

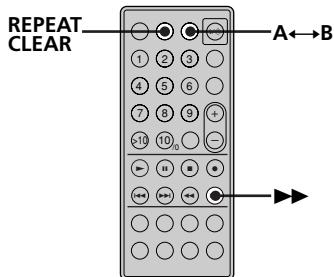
108曲目を選ぶとき >10 (2回) → 1 → 10 → 8

💡 一時停止中に曲番を入力すると

入力した曲の頭で一時停止状態になります。

繰り返し再生する(リピート再生)

MDの全曲を繰り返し再生します。シャッフル再生(24ページ)やプログラム再生(24ページ)を選んだ状態でも、繰り返し再生できます。また、ある1曲だけを繰り返したり、1曲中のある部分だけを繰り返すこともできます。



ご注意

全曲リピートと1曲リピートのどちらを選んでいたかは、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしても記憶されています。ただし、A-Bリピートの設定は、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりすると消去されます。

全曲を繰り返す(全曲リピート)

「REP」が点灯するまでREPEAT CLEARボタンを繰り返し押す。

選ばれている再生のしかたによって、繰り返しかたが変わります。

選ばれている再生	繰り返しかた
ふつうの再生(21ページ)	全曲を順番に再生する。
シャッフル再生(24ページ)	繰り返すたびに曲順が変わる。
プログラム再生(24ページ)	プログラムの曲順に再生する。

全曲リピートを止めるには

■ボタンを押す。

ふつうの再生に戻すには

「REP」が消えるまで、REPEAT CLEARボタンを繰り返し押す。

1曲だけを繰り返す(1曲リピート)

繰り返したい曲の再生中に、「REP 1」が点灯するまで

REPEAT CLEARボタンを繰り返し押す。

1曲リピートが始まります。

1曲リピートを止めるには

■ボタンを押す。

ふつうの再生に戻すには

「REP 1」が消えるまで、REPEAT CLEARボタンを繰り返し押す。

1曲中のある部分だけを繰り返す(A-Bリピート)

1曲中で聞きたい部分を指定し、そこだけを繰り返し聞くことができます。2曲以上にまたがる部分を指定することはできません。

- 再生中に、繰り返したい部分の始点(A点)でA↔Bボタンを押す。
「REP A-」が点灯し、「B」が点滅します。
- そのまま再生を続けて(または▶▶ボタンを押して)繰り返したい部分の終点(B点)まで進み、A↔Bボタンを押す。
「REP A-B」が点灯し、A-Bリピートが始まります。

A-Bリピートを止めてふつうの再生に戻すには

REPEAT CLEARボタンを押す。

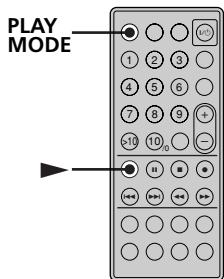
※ 繰り返す部分を先に進めることができます。

今繰り返している部分の終点を始点に変え、新たに終点を指定します。

- A-Bリピート中に、A↔Bボタンを押す。
今の終点が始点(A点)に変わります。
「REP A-」が点灯し、「B」が点滅します。
- 新たに指定したい終点(B点)まで進み、A↔Bボタンを押す。
「REP A-B」が点灯し、新たに指定した部分のA-Bリピートが始まります。

ランダムに再生する (シャッフル再生)

順不同に全曲を1回ずつ再生します。



- 1 停止中に、「SHUF」が点灯するまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。
- 2 ▶ボタンを押す。

シャッフル再生が始まります。

次に再生する曲が決まる間は、「？」が表示されます。

ふつうの再生に戻すには

停止中に、「SHUF」が消えるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。

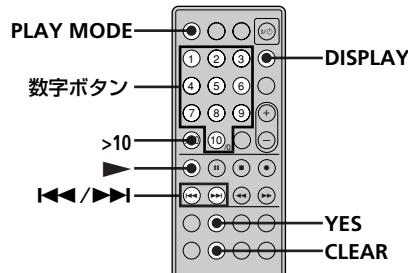
 次に再生する曲を頭出しできます。

◀◀/▶▶ボタンを押す。

▶▶ボタンを押すと次に再生する曲の頭出しをし、◀◀ボタンを押すと再生中の曲の頭に戻ります。すでに再生が終わった曲には戻りません。

聞きたい曲を好きな順番で再生する(プログラム再生)

聞きたい曲だけをプログラムして再生できます。プログラムには25曲まで登録できます。



- 1 停止中に、「PGM」が点灯するまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。
 - 2 数字ボタンを押して曲番を直接入力する。または◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押してプログラムしたい曲番を選び、YESボタンまたはPLAY MODEボタンを押す。「Step X」(Xは入力された曲数)が表示され、プログラムの合計時間が表示されます。
 - 3 最後に入力した曲を取り消すにはCLEARボタンを押す。
 - 4 ▶ボタンを押す。
- MDの10曲目以降を選ぶときは
>10ボタンを使う(22ページ)。

プログラムの最後に曲を追加するには

停止中に手順2を行う。

プログラムした曲をすべて消すには

すべての曲順が消えるまでCLEARボタンを押す。

プログラム再生を止めるには

■ボタンを押す。

ふつうの再生に戻すには

「PGM」が消えるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。

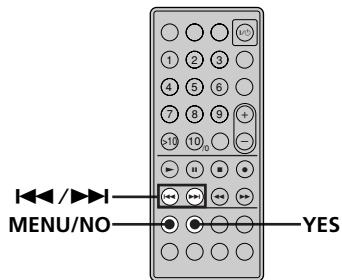
テープに録音するときに便利な再生のしかた

再生が終わっても、プログラムは残っています。

▶ボタンを押すと、プログラムの最初から再び再生します。再生を途中で止めてても、プログラムは消えません。

ご注意

- MDを取り出すと、プログラムは消えます。
- プログラムの合計時間が1000分を超えると、「--- m -- s」と表示されます。
- 26曲目をプログラムしようとすると「Step Full」が表示されます。



曲間を空けて再生する（オートスペース）

MDの曲番が変わることで、曲間を3秒ずつ空けながら再生します。オートスペースを使って再生したMDをテープに録音すると、テープを再生するときにマルチAMS機能を使って曲の頭出しができます。

- 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。
「Setup Menu」が表示されます。
- ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して「Auto Off」を表示させ、YESボタンを押す。
- ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

オートスペースを 選ぶ設定

働かせる Auto Space

働かせない Auto Off (初期設定)

- MENU/NOボタンを押す。

ご注意

- クラシックなどの長い曲では、演奏の途中で曲番だけが変わることがあります。このようなMDをオートスペースを使ってテープに録音すると、無録音部分ができてしまうことがあります。
- オートスペースの設定は、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしても記憶されています。

1曲再生するごとに一時停止する (オートポーズ)

1曲再生が終わるごとに一時停止します。一時停止している間に、次に録音する曲を選ぶことができます。

- 1 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。
「Setup Menu」が表示されます。
- 2 /ボタンを繰り返し押して「Auto Off」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 /ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

オートポーズを	選ぶ設定
働かせる	Auto Pause
働かせない	Auto Off (初期設定)

- 4 MENU/NOボタンを押す。

再び再生を始めるには

▶ボタンを押します。

ご注意

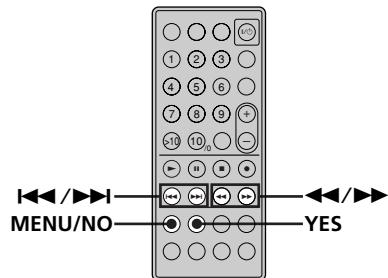
オートポーズの設定は、本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしても記憶されています。

MDを編集する

この章では、さまざまな編集のしかたを説明しています。

編集の前にお読みください

編集操作に使うボタン



以下のボタンは、曲を消す、分ける、移動する、つなぐときに共通で使うことができます。

ご注意

曲やディスクに名前を付けるときは、以下のボタンのはたらきは変わります。詳しくは、「曲やディスクに名前を付ける」(32ページ)をご覧ください。

シャッフル再生やプログラム再生が選ばれているときは編集操作はできません。編集操作の前にふつうの再生を選択してください。

MENU/NOボタン：停止中や再生中、一時停止中に押して、曲を編集します。編集操作中に押すと、編集を途中で取り消します。

< / >ボタン：希望の編集操作や曲番を選びます。また、曲の一部を消したり、曲を分けたりする部分を指定するときにも使います。

YESボタン：選んだ編集操作や曲番を確定します。

< / >ボタン：< / >ボタンを押して再生を進めるときの単位(分、秒、フレーム)を選びます。また、曲の一部を消すときに、消したい部分の終点を探すときに押します。

各ボタンの働きについて詳しくは、それぞれの編集操作のページをご覧ください。

編集の前にお読みください

編集時の表示について

「Protected」が表示されるとき

MDの誤消去防止孔が開いているので、編集できません。つまりをすらして孔を閉じてください。詳しくは、「録音の誤消去を防ぐには」(13ページ)をご覧ください。

編集後の表示について

「TOC」が点灯しているとき

編集した内容はまだMDに記録されていません。「TOC」が点灯しているときに電源プラグをコンセントから抜かないでください。編集内容をMDに記録できなくなります。MDを取り出そうとしたとき、または本機の電源を切ろうとしたときに編集内容はMDに記録されます。

「TOC Writing」が点滅しているとき

編集内容をMDに記録しています。このとき、電源プラグをコンセントから抜いたり、本体をゆらしたりしないでください。録音した内容が正しく記録されない場合があります。

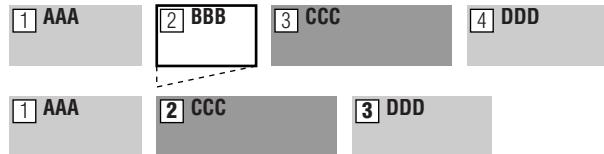
曲を消す (ERASE)

消したい曲の曲番や、消したい部分を指定するだけで、録音した曲を簡単に消すことができます。また、全曲を一度に消すこともできます。

1曲ずつ消す

曲番を指定して消します。

例：2曲目(曲名「BBB」)を消す



曲を消すと曲番は自動的に振り直されます。たとえば、曲番2を消すと、元の曲番3以降のすべての曲番が繰り上がりります。

- 1 停止、再生、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。
「Edit Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Tr Erase ?」を表示させ、YESボタンを押す。
曲番が表示されている曲の再生が始まります。
- 3 消したい曲の曲番が表示されるまで**◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押す。
- 4 YESボタンを押す。
「Complete!!」と数秒間表示されると、手順3で選んだ曲が消え、次の曲の再生が始まります。最後の曲を消したときは、消した前の曲の再生が始まります。

曲を消すのを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

 上記の手順4で「Erase ???」と表示されたら

その曲は、本機以外のMDデッキで誤消去防止状態にされています。それでも消したいときは、この表示がでている間に、もう一度YESボタンを押します。

 2曲以上消すときは

途中の曲番が変わらないように、後ろの曲から消すことをおすすめします。

 消した曲を元に戻すときは

「最後の編集操作を取り消す(UNDO)」(34ページ)をご覧ください。

全曲を一度に消す

MDのすべての曲とともに、ディスク名も消えます。

- 停止、再生、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。「Edit Menu」が表示されます。
- ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して「All Erase ?」を表示させ、YESボタンを押す。「All Erase ??」と表示されます。
- YESボタンを押す。「Complete!!」と数秒間表示されて消え、MDのすべての曲とディスク名が消えます。

曲を消すのを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

⌚ 消した曲を元に戻すときは

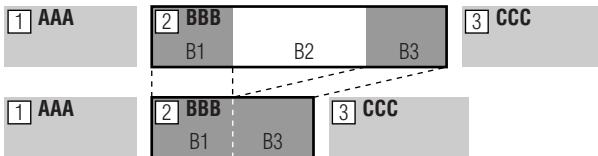
「最後の編集操作を取り消す(UNDO)」(34ページ)をご覧ください。

曲の一部を消す

1曲中の消したい範囲を指定して、簡単にその部分を消すことができます。

衛星放送やFM放送などを録音したあとで、不要な部分だけを消すのに便利です。

例：2曲目の「B2」部分を消す



- 停止、再生、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。「Edit Menu」が表示されます。
- ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して「A-B Erase ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 一部分を消したい曲の曲番が表示されるまで、◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押し、YESボタンを押す。「-Rehearsal-」と「Point A ok?」が交互に表示され、YESボタンを押した位置からの数秒間を繰り返し再生します。

- 再生音を聞きながら◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押し、消したい部分の始点(A点)を探す。

1フレーム*(f)ずつ位置がずらされます(1フレーム=1/86秒)。時間〔m〕(分)、「s」(秒)、「f」(フレーム)が表示され、その位置からの数秒間が繰り返し再生されます。

* モノラルまたはLP2ステレオ録音した曲は2フレームずつ、LP4ステレオ録音した曲は4フレームずつ位置がずれます。

A点をはやく選ぶには

◀◀/▶▶ボタンを押したときに進む単位(分、秒、フレーム)を切り替えます。手順4で、◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して、「m」、「s」、または「f」を選びます。選んだ単位が点滅します。

- A点が正しく再生されるまで手順4を繰り返す。

- YESボタンを押して、A点を設定する。

「Point B set」が表示され、消したい部分の始点(A点)からの数秒間を繰り返し再生します。

- そのまま再生を続けて(または▶▶ボタンを押して)、消したい部分の終点(B点)まで行き、YESボタンを押す。「A-B Ers」と「Point B ok?」が交互に表示され、A点からB点の間を消したつなぎ目の部分(A点までの数秒間とB点からの数秒間)を繰り返し再生します。

- B点が正しく再生されるまで手順4を繰り返す。

- YESボタンを押して、B点を設定する。

「Complete!!」と数秒間表示されて消え、A点からB点の間が消えます。

曲の一部を消すのを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

⌚ 一部を消した曲を元に戻すときは

「最後の編集操作を取り消す(UNDO)」(34ページ)をご覧ください。

ご注意

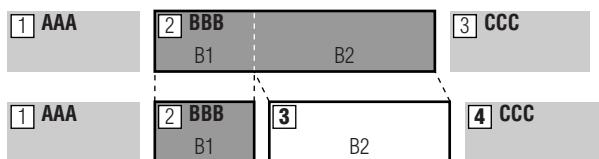
以下の場合は「Impossible」が表示され、その曲の一部を消すことはできません。

- B点がA点よりも前に位置している。
- 何度も編集を繰り返すと、曲の一部を消すことができなくなる場合があります。これはMDのシステム上の制約です。故障ではありません。

曲を分ける (DIVIDE)

トラックマークを追加し、曲を分けることができます。複数の曲に曲番が1つしか付かずに録音され(17ページ)、それぞれの曲に曲番を付けたいときや、曲の途中で頭出し点を作りたいときに曲を分けます。

例：2曲目を「B1」と「B2」に分ける



分かれた曲にも曲番が付き、曲番は自動的に振り直されます。

- 1 停止、再生、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。
「Edit Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Divide ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 分けたい曲の曲番が表示されるまで**◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押し、YESボタンを押す。
「-Rehearsal-」が表示され、YESボタンを押した位置からの数秒間を繰り返し再生します。
- 4 再生音を聞きながら**◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押し、曲を分ける位置を探す。

1フレーム* (f) ずつ位置がずれます (1フレーム = 1/86秒)。時間(「m」(分)、「s」(秒)、「f」(フレーム))が表示され、その位置からの数秒間が繰り返し再生されます。

* モノラルまたはLP2ステレオ録音した曲は2フレームずつ、LP4ステレオ録音した曲は4フレームずつ位置がずれます。

A点をはやく選ぶには

◀◀/▶▶ボタンを押したときに進む単位(分、秒、フレーム)を切り替えます。手順4で、**◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して、「m」、「s」、または「f」を選びます。選んだ単位が点滅します。

- 5 曲を分ける位置が正しく再生されるまで手順4を繰り返す。

6 YESボタンを押す。

「Complete!!」と数秒間表示されて、曲が分かれ、分かれて新しくできた曲の再生が始まります。新しくできた曲には名前は付いていません。

曲を分けるのを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

分けた曲を元に戻すには。

「最後の編集操作を取り消す(UNDO)」(34ページ)をご覧ください。

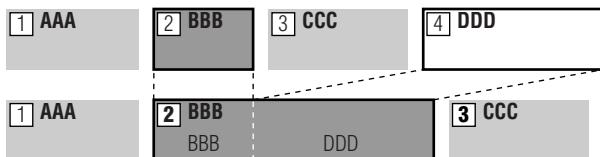
録音中に曲を分けられます。

「録音中に曲番を付ける(トラックマーキング)」(17ページ)をご覧ください。

曲をつなぐ (COMBINE)

2つの曲をつないで1曲にまとめます。離れた曲をつなぐこともできます。また、曲順が後ろの曲に前の曲をつなぐこともできます。いくつかの曲や、何度も停止してコマ切れで録音したものをお1曲にまとめたりするときなどにお使いください。曲をつなぐと、曲番は自動的に振り直されます。

例：2曲目（曲名「BBB」）と4曲目（曲名「DDD」）をつなぐ



つなぐ前の曲の名前が、つながってできた曲の名前になります。

- 1 停止、再生、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。「Edit Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Combine ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 つなぐ前の曲の曲番が表示されるまで**◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押し、YESボタンを押す。
後ろの曲を選ぶ表示になり、つなぐ前の部分（つなぐ前の曲の終わりと後ろの曲の始めの数秒間）を繰り返し再生します。
- 4 つなぐ後ろの曲の曲番が表示されるまで**◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押し、YESボタンを押す。
「Complete!!」と数秒間表示され、選んだ曲がつながり、できた曲の頭から再生が始まります。

曲をつなぐのを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

💡 つないだ曲を元に戻すときは

「最後の編集操作を取り消す (UNDO)」(34ページ) をご覧ください。

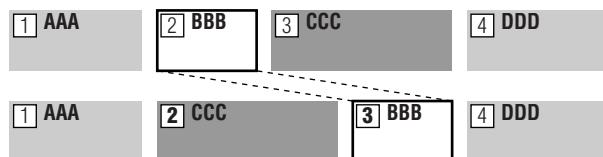
ご注意

- 録音モード（ステレオ、LP2ステレオ、LP4ステレオ、モノラル）が同じ曲としかつなぐことができません。
- 何度も編集を繰り返すと、「Impossible」と表示され、曲をつなげなくなる場合があります。これはMDのシステム上の制約です。故障ではありません。

曲を移動する (MOVE)

曲を好きな位置に移動して、曲順を変えることができます。

例：2曲目（曲名「BBB」）を3曲目（曲名「CCC」）の後ろに移動する



曲を移動すると、曲番は自動的に振り直されます。

- 1 停止、再生、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。「Edit Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Move ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 移動したい曲の曲番が表示されるまで**◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押し、YESボタンを押す。
- 4 移動先の曲番が表示されるまで**◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押し、YESボタンを押す。
「Complete!!」と数秒間表示されると、曲が移動し、移動した曲の再生が始まります。

曲を移動するのを途中でやめるには

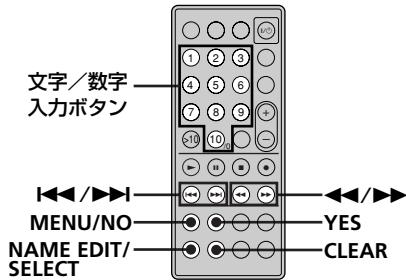
MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

💡 移動した曲を元に戻すときは

「最後の編集操作を取り消す (UNDO)」(34ページ) をご覧ください。

曲やディスクに名前を付ける (NAME)

MDは、曲名やディスク名などの名前を記憶しておくために、アルファベット、数字、記号、カタカナをディスク全体で最大約1700文字まで入力することができます。



ご注意

録音中に曲名を付けるとき、曲名を付けている途中でその曲の録音が終わると、それまで入力していた文字は無効になり、曲名は付けません。また、録音済み部分を消しながら録音しているときには、曲名を付けることができません。これらの場合は、改めて録音後に曲名を付けてください。

曲やディスクに名前を付ける

1 付けたい名前（曲名またはディスク名）によって、以下のように操作する。

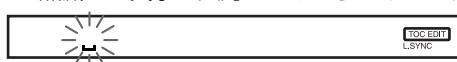
・曲名を付けるとき

曲番が表示されている状態で停止、再生、再生一時停止、録音中に、NAME EDIT/SELECTボタンを押す。

・ディスク名を付けるとき

曲番が表示されていない状態で停止しているときに、NAME EDIT/SELECTボタンを押す。

カーソルが点滅し、文字を入力できるようになります。

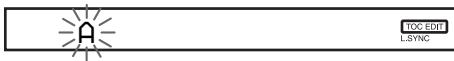


2 NAME EDIT/SELECTボタンを繰り返し押して、入力する文字の種類を選ぶ。

文字の種類	NAME EDIT/SELECTボタンを
大文字アルファベット または記号*	「Selected ABC」が表示されるまで繰り返し押す。
小文字アルファベット または記号*	「Selected abc」が表示されるまで繰り返し押す。
数字	「Selected 123」が表示されるまで繰り返し押す。
カタカナ**または記号*	「Selected ア」が表示されるまで繰り返し押す。

* 表示できる記号 ' - / , . () : ! ?

** 通常の五十音に加え、小文字のアイウエオヤユヨツ、および" (濁点)、。 (半濁点) を表示できます。



3 入力したい文字に対応するアルファベット／数字／カタカナ入力ボタンを押す。

アルファベット／カタカナを選んだとき

1 入力したい文字があるボタン (A、B、Cまたはアイウエオ、カキクケコなど) を繰り返し押して、希望の文字を表示させる。

◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押しても選べます。

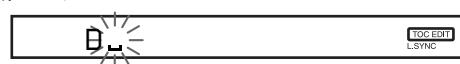
記号を選ぶときは「A」が点滅するまで◀◀ボタンを押します。

2 ▶▶ボタンを押す。

入力した文字の点滅が点灯に変わり、カーソルが次の位置で点滅します。

数字を選んだとき

押したボタンの数字が表示され、カーソルが次の位置で点滅します。



4 手順2～3を繰り返して、文字をすべて入力する。

空白を入力するには

カーソルが点滅しているときに▶▶ボタンを押す。最初の文字に空白は選べません。

文字を変更するには

◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して変更したい文字を点滅させ、CLEARボタンを使って文字を消してから手順2～3を繰り返す。

5 YESボタンを押す。

ディスク名または曲名が最初から表示されます。「Complete!!」と表示され、名前が登録されます。

名前を付けるのを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

付けた名前を元に戻すときは

「最後の編集操作を取り消す (UNDO)」(34ページ)をご覧ください。

エディットメニューを使って名前を付けることもできます。

1 付けたい名前によって以下のように操作する。

・曲名またはディスク名を付けるとき

停止、再生、一時停止中にMENU/NOボタンを押す。

・録音中の曲に名前を付けるとき

録音中にMENU/NOボタンを押す。

2 ▶◀/▶▶ボタンを繰り返し押して「Name ?」を表示させ、YESボタンを押す。

3 ▶◀/▶▶ボタンを繰り返し押して「Nm In?」を表示させ、YESボタンを押す。

4 ▶◀/▶▶ボタンを繰り返し押して曲番（曲名を付けるとき）または「Disc」（ディスク名を付けるとき）を点滅させ、YESボタンを押す。

5 「曲やディスクに名前を付ける」の手順2～5（本ページ）を行う。

名前をコピーする

曲名やディスク名を、同じディスク内の曲名やディスク名としてコピーすることができます。

- 1 停止、再生、一時停止中にMENU/NOボタンを押す。
「Edit Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Name ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Nm Copy ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 4 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して曲番（曲名をコピーするとき）または「Disc」（ディスク名をコピーするとき）を点滅させ、YESボタンを押す。
「No Name」と表示されたときは
曲名またはディスク名が付いていません。
- 5 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押してコピー先の曲番（名前を曲にコピーするとき）または「Disc」（名前をディスクにコピーするとき）を点滅させ、YESボタンを押す。
「Complete!!」と数秒間表示され、コピーが完了します。

コピーを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

💡 上記の手順5で「Overwrite??」と表示されたときは

コピー先にすでに曲名またはディスク名が付いています。それでもコピーしたいときは、この表示が出ている間にもう一度YESボタンを押します。

また、コピー先が、「LP Stamp On」に設定してMD LP録音した曲の場合（15ページ）は、曲名を付けていなくてもこの表示が出ます。この場合、名前をコピーすると、コピー先の曲名の「LP」は消えます。

💡 コピーした名前を元に戻すときは

「最後の編集操作を取り消す（UNDO）」（34ページ）をご覧ください。

名前を付け直す

- 1 付け直したい名前（曲名またはディスク名）によって、以下のように操作する。

曲名を付け直すとき

曲番が表示されている状態で停止、再生、再生一時停止、録音中に、NAME EDIT/SELECTボタンを押す。

ディスク名を付け直すとき

曲番が表示されていない状態で停止しているときに、NAME EDIT/SELECTボタンを押す。

曲名またはディスク名が表示されます。

- 2 CLEARボタンを押したままにして、表示された曲名またはディスク名をすべて消す。

- 3 「曲やディスクに名前を付ける」の手順2～4（32ページ）を行って、名前を付け直す。

4 YESボタンを押す。

ディスク名または曲名が、最初から表示されます。
「Complete!!」と数秒間表示され、名前が付きます。

名前を消す

曲名やディスク名を指定して消します。

- 1 停止、再生、録音、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。
「Edit Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Name ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Nm Erase ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 4 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して曲番（曲名を消すとき）または「Disc」（ディスク名を消すとき）を点滅させ、YESボタンを押す。
「Complete!!」と数秒間表示され、名前が消えます。

名前を消すのを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

💡 消した名前を元に戻すときは

「最後の編集操作を取り消す（UNDO）」（34ページ）をご覧ください。

すべての名前を1度に消す

1度の操作で、ディスクのすべての曲名とディスク名を消すことができます。

- 1 停止、再生、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。
「Edit Menu」が表示されます。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Name ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Nm All Ers?」を表示させ、YESボタンを押す。
「Nm All Ers??」と表示されます。
- 4 YESボタンを押す。
「Complete!!」と数秒間表示され、すべての曲名とディスク名が消えます。

曲名とディスク名を消すのを途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

💡 消した内容を元に戻すときは

「最後の編集操作を取り消す（UNDO）」（34ページ）をご覧ください。

💡 MDのすべての内容を一度に消すことができます。

詳しくは、「全曲を一度に消す」（29ページ）をご覧ください。

最後の編集操作を取り消す(UNDO)



最後に行った編集操作を取り消し、編集前のMDの内容に戻します。ただし、編集後に次のいずれかの操作をすると取り消すことができなくなるのでご注意ください。

- ・本機のREC ●ボタンまたはCD SYNCボタンを押す。
 - ・リモコンの●ボタンまたはM.SYNCボタンを押す。
 - ・他の編集操作を行う。
 - ・電源を切ったり、MDを取り出したりして、編集内容を記録する。
 - ・電源プラグをコンセントから抜く。
- また、S.F EDITを使った編集は、UNDO機能を使っても、元の状態に戻すことはできません。

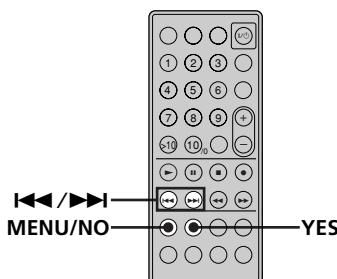
4 YESボタンを押す。

「Complete!!」と数秒間表示され、MDは編集前の内容に戻ります。

編集操作を取り消すの途中でやめるには

MENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。

MDを編集する



1 停止中、曲番が表示されていないときに、MENU/NOボタンを押す。

「Edit Menu」が表示されます。

2 L/Rボタンを繰り返し押して「Undo ?」を表示させる。

編集操作を行っていないときは、「Undo ?」は表示されません。

3 YESボタンを押す。

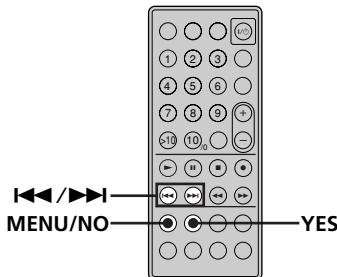
最後に行った編集操作に応じて、次のようなメッセージが表示されます。

最後の編集操作	表示
1曲ずつ消す	
全曲を一度に消す	Erase Undo?
曲の一部を消す	
曲を分ける	Divide Undo?
曲をつなぐ	Combine Undo?
曲を移動する	Move Undo?
曲やディスクに名前を付ける	
名前をコピーする	
名前を付け直す	Name Undo?
名前を消す	
すべての名前を一度に消す	

録音後に録音レベルを変更する (S.F EDIT)



録音済みの曲の音声レベルを変更することができます。もとの曲は新しい録音レベルで上書きされます。また、フェードイン・フェードアウトを使うと、曲の頭が次第に大きく再生される曲や、曲の最後が次第に小さく再生される曲を作ることができます。



1曲全体の録音レベルを変更する

- 1 停止中、再生中、一時停止中に、MENU/NOボタンを押す。
「Edit Menu」が表示されます。
- 2 </>ボタンを繰り返し押して「S.F Edit ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 </>ボタンを繰り返し押して「Tr Level ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 4 </>ボタンを繰り返し押して、録音レベルを変更したい曲番を表示させ、YESボタンを押す。
- 5 再生される音を聞きながら</>ボタンを繰り返し押して、録音レベルを変更する。
-12 dBから+12 dBの範囲内(2 dB単位)で変更できます。



ここが常に点灯しないように調節

- 6 YESボタンを押す。
「S.F Edit ok?」が表示されます。
- 7 YESボタンを押す。
曲の書き換えが始まります。
書き換え中は、「S.F Edit:XX%」が表示されます。
曲の書き換えには、その曲の再生時間とほぼ同じかそれ以上の時間がかかります。書き換えが終わると、「Complete!!」が数秒間表示されます。

フェードイン・フェードアウトする曲を作る

- 1 停止中、再生中、一時停止中に、MENU NOボタンを押す。
「Edit Menu」が表示されます。
- 2 </>ボタンを繰り返し押して「S.F Edit ?」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 </>ボタンを繰り返し押して「Fade In ?」(曲の頭が次第に大きく再生される)または「Fade Out ?」(曲の最後が次第に小さく再生される)を表示させ、YESボタンを押す。
- 4 </>ボタンを繰り返し押して、フェードインまたはフェードアウトさせたい曲番を表示させ、YESボタンを押す。
「Time 5.0s」が表示されます。

- 5 再生される音を聞きながら</>ボタンを繰り返し押して、フェードインまたはフェードアウトする時間(0.1秒単位)を調節する。
フェードインまたはフェードアウトされる部分がくり返し再生されます。
1秒から15秒の間(0.1秒単位)で調節できます。その曲の再生時間を超えた設定はできません。
- 6 YESボタンを押す。
「S.F Edit ok?」が表示されます。
- 7 YESボタンを押す。
曲の書き換えが始まります。
書き換え中は、「S.F Edit:XX%」が表示されます。
書き換えが終わると、「Complete!!」が数秒間表示されます。

録音レベルの変更を途中でやめるには

手順1~6でMENU/NOボタンまたは■ボタンを押す。
手順7でYESボタンを押して書き換えが始まると、操作を途中でやめることはできません。

ご注意

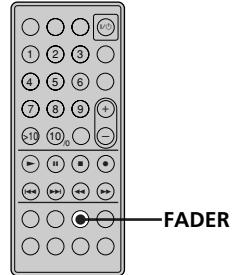
- 曲の書き換え中に本機をゆらしたり、電源プラグをコンセントから抜かないでください。録音情報が破損し、正しく記録されません。
- LP2またはLP4ステレオ録音した曲は、録音レベルを変更できません。
- 傷や汚れのあるディスクは使用しないでください。録音情報が正しく記録されないことがあります。
- 録音レベルを何度も変更すると音質が劣化します。
- 録音レベルを変更した曲を再びS.F EDITを使って元のレベルに戻しても、完全に元の録音レベルには戻りません。また、録音レベルを変更する操作は、取り消すことはできません。

その他の機能

この章では、その他の役立つ機能を説明しています。

フェードイン・フェードアウトを使う

録音レベルを次第に大きくして録音を始めたり（フェードイン録音）、次第に小さくして録音を終えたり（フェードアウト録音）することができます。



フェードイン録音

録音一時停止中に、FADERボタンを押す。

フェードイン中は表示窓に◀が点滅します。カウンターが「0.0s」になるまで5秒間（初期値）フェードインします。

フェードアウト録音

録音中に、FADERボタンを押す。

フェードアウト中は表示窓に▶が点滅します。カウンターが「0.0s」になるまで5秒間（初期値）フェードアウトします。フェードアウトが終わると、自動的に一時停止します。

💡 フェード時間変えることができます。

1 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。

「Setup Menu」が表示されます。

2 ▲◀/▶▼ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

時間を変える先

選ぶ設定

フェードイン録音

F.in

フェードアウト録音

F.out

3 ▲◀/▶▼ボタンを繰り返し押してフェードの時間を設定し、YESボタンを押す。

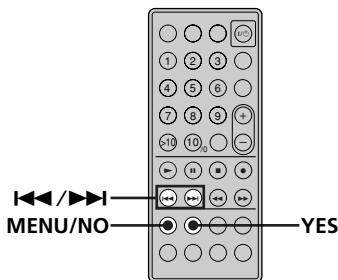
フェードイン、フェードアウトの時間とも、1秒～15秒まで0.1秒単位で設定できます。

◀▶/▶▼ボタンを使うと1秒単位で設定できます。

4 MENU/NOボタンを押す。

表示の明るさを調節する

表示の明るさを4段階で変えることができます。表示窓を暗くしている間は合ボタン、▷IIボタン、■ボタンは消灯します。



- 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。「Setup Menu」が表示されます。
- ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して「Dimmer」を表示させ、YESボタンを押す。
- ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

設定 表示窓と合、▷II、■ボタン

Dimmer 1 (初期設定)	表示窓は通常の明るさで表示され、ボタンが点灯する。
Dimmer 2	表示窓は少し暗くなり、ボタンが点灯する。
Dimmer 3	表示窓は少し暗くなり、ボタンが消灯する。
Dimmer 4	表示窓は消灯し、ボタンも消灯する。

- MENU/NOボタンを押す。

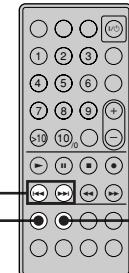
表示が消灯しているときに、表示されている情報が更新されると

表示は少し明るくなり新しい情報が数秒間表示されたあと、再び消灯します。

本機の表示の明るさは、レシーバーの表示と同じ明るさになります。

iLINKコントロール機能がはたらいているときは、レシーバーで設定した表示の明るさと同じになります。

セットアップメニューを使った その他の設定



現在選んでいる機器を確認する (Ping機能)

Ping機能が働いているときに、本機のINPUTボタンを押したときに、現在どの機器を選んでいるかを確認することができます。選ばれている機器の表示窓に、一時的に「▶▶◀◀」と表示されます。ただし、この機能はレシーバーSTR-LSA1とCDプレーヤー CDP-LSA1のみに働きます。

- 停止中に、MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。「Setup Menu」が表示されます。
- ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して「Ping」を表示させ、YESボタンを押す。
- ◀◀/▶▶ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

Ping機能を 選ぶ設定

働かせる	Ping On (初期設定)
働かせない	Ping Off

- MENU/NOボタンを押す。

本機の電源を自動的に切る（パワーセーブ機能）

パワーセーブ機能が働いていると、5分間何も操作されないと自動的に電源が切れ、STANDBY状態になります。

- 1 MENU/NOボタンを繰り返し2回押す。
- 2 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して「Power save On」を表示させ、YESボタンを押す。
- 3 **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して設定を選び、YESボタンを押す。

パワーセーブ機能を	選ぶ設定
働かせる	Power save On (初期設定)
働かせない	Power save Off

- 4 MENU/NOボタンを押す。

i.LINKについて

ここではi.LINKの規格や特長について説明します。i.LINKを使って操作を始める前にお読みください。

なお、i.LINKを使った接続や操作は、機器によって異なることがあります。本機とi.LINK対応機器との接続について詳しくは、「i.LINK対応機器に接続する」(11ページ)をご覧ください。

i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

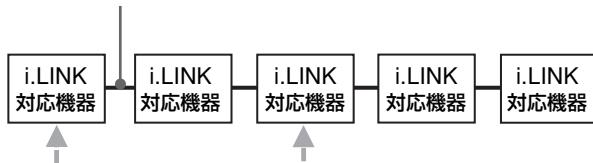
ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。

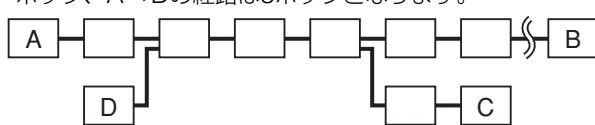
i.LINKケーブル



2つの機器の間に他の機器がつながっていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

- i.LINK端子を3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
 - i.LINK対応機器は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。
(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。)
- ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

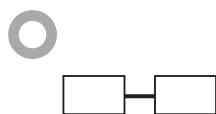


A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、いずれの経路も最大17台の機器を接続できます（最大16ホップ）。

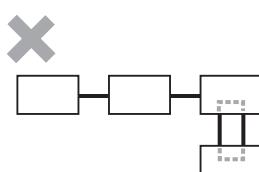
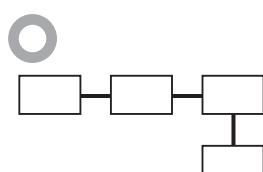
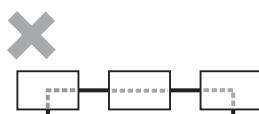
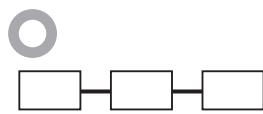
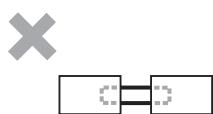
接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

正しい接続例



ループの接続例



接続についてのご注意

- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られるとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100/200/400 Mbps*が定義されており、それぞれS100、S200、S400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？

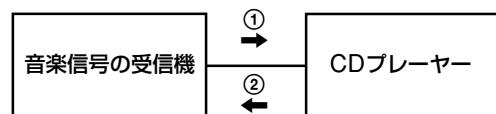
「Mega bits per second」の略で、「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。200 Mbpsならば、1秒間に200メガビットのデータを送ることができます。

リンク「LINCする」とは？

i.LINK対応機器間をi.LINKケーブルで接続しただけでは、音楽信号の送受信をすることはできません。音楽信号を送信する機器と受信する機器をLINCする必要があります。「LINCする」とは、送受信を行う機器間に「音楽信号の論理的な経路を確立する」ことを意味します。この論理経路には識別番号があり、送信側はこの経路に音楽信号を出し、受信側はこの経路の音楽信号を入力します。送受信を行う機器は、この経路を互いに知っている必要があります。LINCするとき、i.LINK対応機器間で、以下のようやりとりが行われます。

例) 音楽信号を受信する機器からCDプレーヤーをLINCするとき

- ① CDプレーヤーに対して、「これから、音楽信号の論理的な経路を確立してください」と、音楽信号の経路の識別情報を送る。



② 「了解です」とCDプレーヤーが信号を送る。

以上のようなやりとりが行われ、LINCが完了して初めて、i.LINK対応機器間で音楽信号を送受信することができるようになります。

その他

この章では、本機をご使用になる上での参考として役立つ情報を説明しています。

システム上の制約

MD（ミニディスク）システムは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行われます。そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

最大録音可能時間に達していないても、「Disc Full」が表示される。

MDシステムでは、時間に関係なく、曲数がいっぱいになると「Disc Full」の表示が出ます。256曲以上は録音できません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消すか、2枚目のMDに分けて録音してください。

曲数にも録音時間にも余裕があるのに、「Disc Full」が表示される。

曲中にエンファシス情報などの入切が多く行われると、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく「Disc Full」の表示が出ます。

短い曲を何曲消してもMDの残り時間が増えない。

MDの残り時間を表示するとき、12秒*以下の部分（ステレオモード時）は無視するので、短い曲を消しても時間が加算されないことがあります。

* ステレオ録音時。（モノラル、LP2ステレオ録音時は約24秒、LP4ステレオ録音時は約48秒）

MDに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間に一致しない場合がある。

通常、1クラスタ（約2秒*）（ステレオモード時）が最小単位で録音されます。それに満たないものでも2秒*分のスペースを使います。このため実際に使用できる時間は少なくなります。

また、MDに傷があると、その部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

* ステレオ録音時。（モノラル、LP2ステレオ録音時は約4秒、LP4ステレオ録音時は約8秒）

録音済みの部分を消しながら録音すると

- MDの残り時間が正確に表示されないことがあります。
- 何度も繰り返すと、消しながら録音できなくなることがあります。このようなときは、編集（曲を消すなど）を行ってから録音してください（28ページ）。
- 録音した時間に対して、録音後の残り時間が、録音前の残り時間よりもかなり減ってしまうことがあります。
- 曲の途中のノイズなどをこの方法で消すと、曲の長さが変わったりしてしまうので適しません。
- 録音中に曲名を付けることができません。

ハイスピードコピーマネージメントシステム (HCMS) について

編集でできた曲でサーチを行うと、音が途切れことがある。

つなぐことができない場合がある。

編集を行ってできた曲は、つなぐことができない場合があります。

曲番が正確に付かないことがある。

デジタル接続でCDを録音するとき、CDの録音内容によって、短い曲ができる場合があります。

また、セットアップメニューの「T.Mark」を「Lsync」に設定して自動的に録音中に曲番を付けた場合、録音するものの内容によっては、曲番が正確に付かない場合があります。

「TOC Reading」の表示がなかなか消えない。

購入したばかりの録音用MDを入れると、通常より「TOC Reading」表示が長く表示されます。

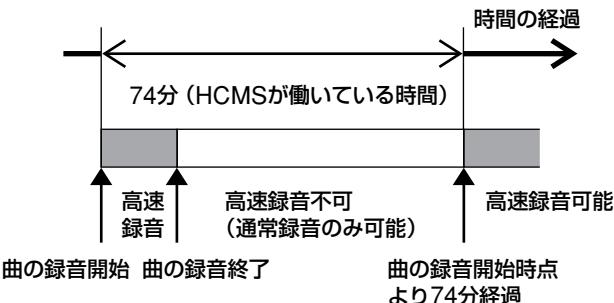
モノラルモードで録音されたディスクでは時間が正確に表示されないことがあります。

ある曲を高速シンクロ録音すると、録音を始めた時点から74分間は、同一の曲を高速シンクロ録音することができません。ハイスピードコピーマネージメントシステム (HCMS) では、CDの曲ごとに固有なデータ (ISRC: International Standard Recording Code) をもとに、録音しようとしている曲が74分以内に録音されているかどうかを判定します。

録音しようとしている曲が74分以内に録音されていると、以下のように表示されます。

— Retry HCMS —

すでに高速シンクロ録音された曲を再び高速録音した場合、通常速度のCDシンクロ録音 (19ページ) に切り換わり、録音を継続します。



高速シンクロ録音を曲の途中で止めたり、曲の録音中にMDの残り時間がなくなると

その曲はMDに記録されません。この場合、HCMSによって録音は禁止されないので、すぐに高速シンクロ録音で録音し直すことができます。

その他

高速シンクロ録音中に本機の電源を切ると

その曲はMDに記録されません。この場合、HCMSによって録音は禁止されないので、すぐに高速シンクロ録音で録音し直すことができます。

本機のCDプレーヤーで作ったプログラムを高速録音するときは

HCMSは曲の録音の可否を1曲ごとに判定するため、同一の曲が74分以内にプログラムされていると、その曲は通常速度のシンクロ録音で録音されます。

たとえば、CDの1→2→3→2曲目の順番でプログラムされている場合は、プログラムの3曲目まで正常に録音されたあと、このページの左のようなメッセージが表示され、プログラムの4曲目 (CDの2曲目) は、通常速度のシンクロ録音で録音されます。

ご注意

通常速度のシンクロ録音時には、HCMSは働きません。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、まず電源プラグをはずし、再度電源プラグを入れ直したあとで以下の項目を参照して点検してみてください。それでも正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口またはお客様ご相談センターにお問い合わせください。

操作を受けつけない。

- MDが汚れている、または損傷しています。新しいMDと取り替えてください。
- パソコンなどをつないで本機を操作しています。このとき、「Remote」と表示され、本体やリモコンでは操作できません。

再生できない。

- 結露（本体内部に水滴が付着）しています。MDを取り出して、電源を入れたまま1～数時間置いてください。
- 電源を入れてください。
- レシーバーとの接続を確認し、正しく操作してください。
- MDの矢印の向きに合わせて差し込んでください。
- 新しいMDが入っています。録音されているMDを取り替えてください。

雑音が多い。

- テレビなどから充分離してください。

録音できない。

- MDが誤消去防止状態になっています。誤消去防止つまみをすらして孔を閉じてください。
- 音源との接続を確認してください。
- INPUTボタンで、音源を正しく選んでください。
- 録音レベルを調節してください。
- 録音用ディスクと取り換えてください。
- 残り時間が充分ある録音用ディスクと取り換えてください。または、不要な曲を消してください。
- 録音中に電源コードが抜けたり、停電になったりすると、録音の内容を記録できない場合があります。はじめから録音し直してください。

表示窓にメッセージと3桁または5桁の英数字が交互に表示される。

- 自己診断表示機能が働いています。45ページの表を見て対処してください。

上記のどの処置でも正常に動作しない場合は、電源プラグをはずし、再度電源プラグを入れ直してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- ・この製品には保証書が添付されています。
- ・所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- ・保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

添付の「サービス窓口・ご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ミニディスクデッキの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によつては修理可能の場合がありますので、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意をいただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- ・型式：MDS-LSA1
- ・故障の状態：できるだけ詳しく
- ・購入年月日：
- ・お買い上げ店：

主な仕様

形式	ミニディスクデジタルオーディオシステム
ディスク	ミニディスク
記録方式	磁界変調オーバーライト方式
再生読み取り方式	非接触光学式読み取り(半導体レーザー使用)
レーザー	半導体レーザー($\lambda=780\text{ nm}$)
回転数	約400 rpm~900 rpm(CLV)
エラー訂正方式	ACIRC(アドバンスドクロスインターリーブリードソロモンコード)
サンプリング周波数	44.1 kHz
コーディング	ATRAC(アダプティブトランസトｫームアコースティックコーディング)/ATRAC 3
変調方式	EFM
チャンネル数	ステレオ2チャンネル
周波数特性	5~20,000 Hz $\pm 0.3\text{ dB}$
SN比	再生時100 dB以上
ワウフランク	測定限界値($\pm 0.001\text{ W. PEAK}$)以下*

入出力端子(i.LINK S200)

i.LINK端子	4ピン \leftrightarrow 4ピン(S200)
伝送プロトコル	A&Mトランスマッショントロトコル(IEC61883-6)
信号フォーマット	2チャンネルリニアPCM(IEC60958)
サンプリング周波数	(入力) 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz (出力) 44.1 kHz

電源・その他

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	15 W
最大外形寸法	430×70×315 mm (幅/高さ/奥行、最大突起部含む)
質量	4.4 kg

付属品

10ページをご覧ください。

* JEITA(電子情報技術産業協会)の規格による測定値です。

本機はドルビー・ラボラトリーズ・ライセンシングコーポレーションの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります
が、了承ください。

メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、英語のメッセージが
出ます。日本語の意味は下の表のとおりです。
46ページの「自己診断機能と表示一覧」もご覧ください。

メッセージ	意味
Auto Cut	オートカットが働いている(16ページ)。
Blank Disc	購入したばかりの録音用MD、または全曲を 消去した録音用MDを入れた。
CANNOT LINC	選んだ機器から録音できない。他の機器を選 ぶ。録音中に、選んだ機器との通信にエラー が起きたときにも表示されます。このときは ■ボタンを押して録音を停止し、もう1度録音 する。
Cannot Copy	このMDを音源にしたデジタル録音はできな い(14ページ)。
Cannot Edit	市販のMDソフトは編集できない。 プログラム、シャッフル再生の状態で編集し ようとした。また、LP2、LP4ステレオ録音 したMDを編集しようとした。
Cannot Synchro	CDが再生中にCDシンクロ録音しようとし た。また、CDシンクロ録音中に読み取り工 ラーがおきた。
Disc Full	MDの残り時間がため、録音できない (「システム上の制約」41ページ)。
Impossible	録音または編集操作ができない(31ペー ジ)。
Incomplete!!	本体の振動やディスクの傷、汚れなどによ り、S.F EDIT(録音後の録音レベルの変更、 フェードイン・フェードアウト)が正しく行 われなかった。
Initialize(点滅)	セットアップメニューの設定などを本機は記 憶していない。また、タイマー録音した内容 やプログラムした内容が、長時間経過したた め消去された。(■/□スイッチを押して電源を 入れたときに、約4秒間点滅します。)
Name Full	曲名とディスク名の文字数が上限に達した。 最高約1700文字しか入力できない。
NEW CONNECT	i.LINKの経路に新しい機器が追加された。本 機や本機に接続しているi.LINK対応機器の電 源コードやi.LINKケーブルを抜き差ししたと きも表示されます。
No Change	録音後に録音レベルを変更するときに、録音 レベルを変更しないでYESボタンを押したた め、書き換えをせずに終了した。
No Disc	MDが入っていない。
No Name	名前が付いていない。
No Program!!	曲がプログラムされていないのにプログラム 再生をしようとした。
Premastered	市販のMDソフトには録音できない。

メッセージ表示一覧

メッセージ	意味
Step Full!	プログラムした曲数が最大値に達し、これ以上プログラムできない。
Remote	本機は接続された外部機器にコントロールされている。 このとき、本体とリモコンのボタンは働きません。
S.F Edit!	S.F EDIT (録音後の録音レベルの変更、フェードイン・フェードアウト) の実行中に他の操作をしようとした。 S.F EDITの実行中は他の操作はできない。
S.F Edit NOW	S.F EDIT (録音後の録音レベルの変更、フェードイン・フェードアウト) の実行中に ■▽ (電源) スイッチを押した。 S.F EDITの実行中に電源を切ると、書き換えが正常に終了しない。編集を終え、S.F EDITモードを出てから電源を切る。ただし、この表示が出ているときに電源を切るときには、表示が消える前に ■▽ (電源) スイッチをもう一度押す。
Smart Space	スマートスペースが働いている (16ページ)。
TOC Reading	MDを入れた直後に、記録された情報を本機に読み込んでいる。

* この場合以外に「Remote」が表示されたときは、本機の電源を入れ直してください。

エディットメニューの項目一覧

本機では、メニュー操作でさまざまな編集ができます。各編集操作についてはそれぞれの項目で述べてあるとおりですが、メニュー内の各項目とその働きを以下の表にまとめました。操作のご参考にお使いください。

エディットメニューへの入りかた

MENU/NOボタンを押して、「Edit Menu」を表示させる。

ご注意

本機の状態によって、MENU/NOボタンを押したときに表示される項目は異なります。

項目	サブ項目	はたらき	参照ページ
Name ?	Nm In ?	曲やディスクに名前を付ける。	32ページ
	Nm Copy ?	名前をコピーする。	33ページ
	Nm Erase ?	名前を消す。	33ページ
	Nm All Ers ?	すべての名前を一度に消す。	33ページ
Tr Erase ?	—	曲を消す。	28ページ
Move ?	—	曲を移動する。	31ページ
Combine ?	—	曲をつなぐ。	31ページ
Divide ?	—	曲を分ける。	30ページ
A-B Erase ?	—	曲の一部を消す。	29ページ
All Erase ?	—	全曲を一度に消す。	29ページ
Undo ?	—	最後の編集操作を取り消す。	34ページ
S.F Edit ?	Tr Level ?	1曲全体の録音レベルを変更する。	35ページ
	Fade In ?	フェードインする曲を作る。	35ページ
	Fade Out ?	フェードアウトする曲を作る。	35ページ
Setup ?	—	セットアップメニュー (45ページ) に入る。	—

セットアップメニューの項目一覧

本機では、メニュー操作でさまざまな設定ができます。設定に必要な操作についてはそれぞれの項目で述べてあるとおりですが、メニュー内の各項目のはたらき、設定値、初期値などを以下の表にまとめました。操作のご参考にお使いください。

セットアップメニューへの入りかた

停止中にMENU/NOボタンを繰り返し2回押し、「Setup Menu」を表示させる。

項目	サブ項目	はたらき	設定値	初期値	参照ページ
T.Mark	—	トラックマーキングのしかたを設定する。	Lsync/Off	Lsync	17ページ
LS(T)	—	オートトラックマーキングの基準レベルを設定する。	-72~0dB (2dB単位)	-50dB	18ページ
Auto	—	オートスペースとオートポーズを設定する。	Off/Space/Pause	Off	25、26ページ
S.Space	—	スマートスペースとオートカットを設定する。	On/Off	On	17ページ
P.Hold	—	入力信号の一番高いレベルを常に表示する。	On/Off	Off	16ページ
F.in	—	フェードインの時間を設定する。	1.0~15.0s	5.0s	36ページ
F.out	—	フェードアウトの時間を設定する。	1.0~15.0s	5.0s	36ページ
Synchro	—	CDシンクロ録音のスピードを設定する。	Normal/High	High	19ページ
LPstamp	—	MD LP録音時に、曲名の頭に「LP:」を付けるように設定する。	On/Off	On	15ページ
Dimmer	—	表示窓の明るさを設定する。	Dimmer 1/2/3/4	Dimmer 1	37ページ
Ping	—	Ping機能を設定する。	On/Off	On	37ページ
Powersave	—	パワーセーブ機能を設定する	On/Off	On	38ページ

自己診断機能と表示一覧

本機には自己診断表示機能があります。本機が正しく動作していないときに、表示窓に3桁または5桁の英数字コードとメッセージを交互に表示して知らせます。

以下の表をご覧になり、表示にあった対処をしてください。2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

コード/メッセージ	原因と対応のしかた
C11 / Protected	ディスクが誤消去防止状態になっている。 → ディスクを取り出し、録音可能状態にする(13ページ)。
C12 / Cannot Copy	本機で再生できないフォーマットのディスクを再生しようとしている。 → ディスクを取り出し、音楽用のMDを入れて再生する。
C13 / Rec Error	正しく録音できなかった。 → 振動のない場所に本機を設置し、録音をやり直す。 ディスクにひどい汚れ(油膜、指のあとなど)や傷がある、またはディスクが規格外である。 → ディスクを交換して、録音をやり直す。
C13 / Read Error	ディスク情報を正しく読み取れなかった。 → ディスクを入れ直す。
C14 / TOC Error	ディスク情報を正しく読み取れなかった。 → 他のディスクを入れてみる。 → ディスクの内容をすべて削除してよいときは、記録されている内容をすべて削除する(29ページ)。
C41 / Cannot Copy	このMDを音源にしたデジタル録音はできない(14ページ)。
C71 / Din Unlock	一瞬表示されて消えるときは、録音中のデジタル放送の信号によるものです。録音内容に影響はありません。 iLINK接続されたデジタルの音源からの録音中に、iLINKケーブルが抜けた、または音源の電源が切れた。 → ケーブルをつなぐ、またはデジタル機器の電源を入れる。
C78:03 / LOOP CONNECT	iLINK接続がループしている。 → 接続を確認する(39ページ)。
C78:04 / NO SIGNAL	選んだ機器の電源は入っているが、出力がない。 → 選んだ機器から音が出ているか確認する。
C78:11 / C78:12 / CANNOT LINC	本機が他の機器とLINCしているため、選んだ別の機器とLINCすることができない。 → 使用しない機器のLINCを解除する。
C78:15 / BUS FULL	iLINKのバスが込み合っているため、本機から信号を出力できない。
C78:21 / NO SIGNAL	選んだ機器と本機が正しく接続されているが、選んだ機器から本機への入力がない。 → 選んだ機器から音が出ているか確認する。
C78:22 / NO SIGNAL	入力された信号のフォーマットに本機が対応していない。
C78:23 / NO SIGNAL	選んだ機器の電源が入っていない。 → 電源が入っているか確認する。
C78:31 / NO SIGNAL	本機と選んだ機器のデータ転送が不安定になっている。または、入力された信号のフォーマットに本機が対応していない。 → 選んだ機器の状況と、信号のフォーマットを確認する。
C78:32 / NEW CONNECT	録音中に、iLINKの経路に新しい機器が追加された、またはiLINK経路内の機器の電源コードやiLINKケーブルが抜き差しされた。 → 録音中は、電源コードやiLINKケーブルを抜き差ししないでください。正しく録音できないことがあります。
E0001 / MEMORY NG	本機を動作させるために必要な内部情報に問題が生じた。 → お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
E0101 / LASER NG	光ピックアップに問題が生じた。 → 故障の可能性があります。お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

索引

五十音順

あ行

- 一時停止
再生一時停止 21
- 録音一時停止 13
- 移動する 31
- オートカット 17
- オートスペース 25
- オートトラックマーキング
設定のしかた 17
- 補足情報 18
- オートポーズ 26

か行

- 繰り返し再生する
1曲リピート 23
- 全曲リピート 23
- A-Bリピート 23
- 消す
1曲ずつ消す 28
- 曲の一部を消す 29
- 全曲を1度に消す 29
- 名前を1度に消す 33
- 名前を消す 33

さ行

- サーチ 22
- 最後の編集操作を取り消す 34
- 再生
再生する 21
- ダイレクト選曲で再生する 22
- シャッフル再生 24
- シリアルコピーマネージメント
システム 14
- スマートスペース 16

た行

- タイムマシン録音 18
 - つなぐ 31
 - 電池 10
- ### な行
- 名前を付ける
スクロール表示する 21
 - 名前をコピーする 33
 - 名前を付け直す 33
 - 名前を付ける 32

は行

- パワーセーブ機能 38
- ピークホールド機能 16
- ピークレベルメーター 16
- 表示
曲名 9
- 全曲数 8、9
- 総録音済み時間 9
- ディスク名 8
- 残りの録音可能時間 9、16
- 表示窓の明るさ 37
- フェードアウト録音 36
- フェードイン録音 36
- 付属品 10
- プログラム再生
プログラム内容の確認 24
- プログラムのしかた 24

ま行

- マニュアルトラックマーキング 17
- ミュージックシンクロ録音 19

ら行

- リモコン 10
- 録音
曲を消しながら録音する 12
- 長時間録音する 15
- 録音する 12
- 録音モード 15
- 録音レベル 16

わ行

- 分ける 30

アルファベット順

- AMS 22
 - CDシンクロ録音
高速 19
 - ノーマルスピード 19
 - H.A.T.S.機能 4
 - iLINK
接続 11、39
 - iLINKケーブル 10、11
 - iLINK対応機器 11
 - LINC 39
 - LP Stamp機能 15
 - MD (ミニディスク)
誤消去防止つまみ 13
 - 市販のMD 9
 - 取り出す 13、21
 - 録音用MD 9、12
 - S.F.EDIT
1曲全体の録音レベルを変更する 35
 - フェードアウトする曲を作る 35
 - フェードインする曲を作る 35
- TOC 14、28

ソニー株式会社〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35
お問い合わせはお客様ご相談センターへ
● ナビダイヤル…………… 0570-00-3311 受付時間：
(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)
● 携帯電話・PHSでのご利用は… 03-5448-3311 月～金
● Fax ……………… 0466-31-2595 土・日・祝日
9:00～
20:00、
9:00～
17:00